

**ボスニア・ヘルツェゴビナ  
スレブレニツァ地域における信頼醸成  
のための農業・農村開発プロジェクト  
終了時評価調査報告書（延長時）**

平成 26 年 3 月  
(2014年)

独立行政法人国際協力機構  
農村開発部

農 村
J R
14-040

**ボスニア・ヘルツェゴビナ  
スレブレニツァ地域における信頼醸成  
のための農業・農村開発プロジェクト  
終了時評価調査報告書（延長時）**

**平成 26 年 3 月  
（2014年）**

**独立行政法人国際協力機構  
農村開発部**

## 序 文

独立行政法人国際協力機構は、ボスニア・ヘルツェゴビナ政府の要請を受けて、スレブレニツァ地域において住民間の信頼醸成を目的とした技術協力プロジェクト「スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト」を2008年9月から2013年11月まで実施しました。

本プロジェクトは当初、2011年8月までの3年間の計画で実施してきましたが、事業継続支援に対する先方政府の強い希望と日本側が支援を継続する政策的意義を勘案し、2011年6月に2年3カ月間協力期間を延長したことから、計5年3カ月間の協力期間となりました。

2013年10月28日から11月13日まで、当機構 橋本 敬市 国際協力専門員を団長とする終了時評価調査団を現地に派遣し、ボスニア・ヘルツェゴビナ側評価委員と合同で、協力期間中の実績の確認、計画に対する達成度の検証、及び本協力の実施による教訓の取りまとめを行いました。その結果、プロジェクトはおおむね順調に進捗し、プロジェクト終了までに所期の成果をほぼ達成できる見込みが高いことと判断されました。

本報告書は、同調査団によるボスニア・ヘルツェゴビナ政府関係者との協議並びに調査・評価結果を取りまとめたものであり、本プロジェクトの今後の運営並びに関連する国際協力の推進に広く活用されることを期待します。

ここに、本調査にご協力頂いた内外の関係各位に対し、心から感謝の意を表します。

平成26年3月

独立行政法人国際協力機構

農村開発部長 熊代 輝義

# 目 次

序 文

プロジェクト対象地域図

写 真

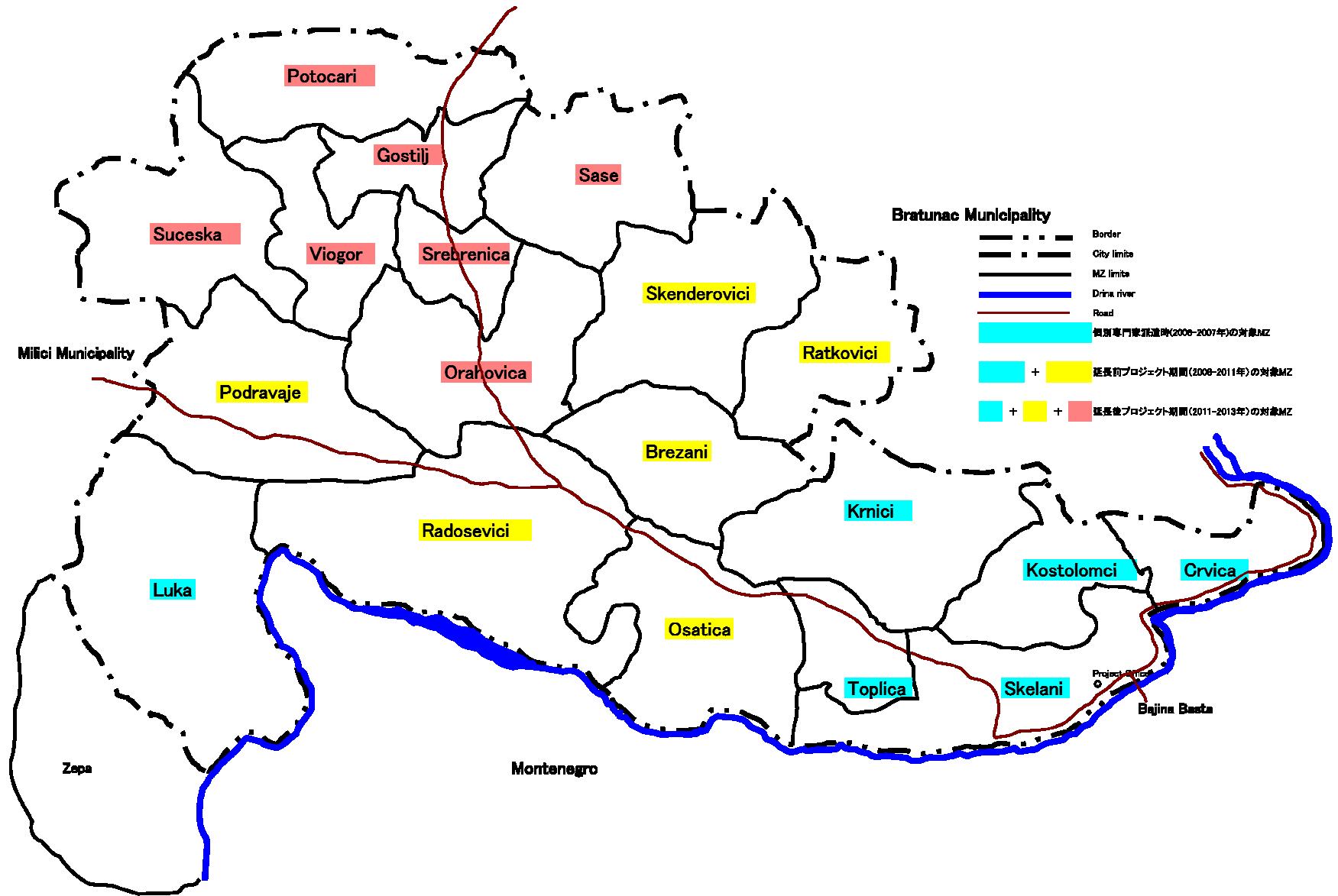
略語表

評価調査結果要約表（延長時）

第1章 評価調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-1-1 経緯	1
1-1-2 目的	1
1-2 調査団の構成と調査期間	2
1-2-1 調査団の構成	2
1-2-2 ボスニア・ヘルツェゴビナ側評価委員	2
1-2-3 調査期間	2
1-3 プロジェクトの概要	2
第2章 終了時評価調査の方法	4
2-1 調査方法（合同評価）	4
2-2 評価調査の制約	4
第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス	5
3-1 投入	5
3-1-1 日本側	5
3-1-2 ボスニア・ヘルツェゴビナ側	5
3-2 2011年4月の終了時評価調査での提言への対応	6
3-3 2011年4月の終了時評価調査以降の主な活動	6
3-4 成果の達成状況	6
3-5 プロジェクト目標の達成状況	10
3-6 実施プロセス	11
第4章 評価結果	12
4-1 評価5項目による評価	12
4-1-1 妥当性	12
4-1-2 有効性	12
4-1-3 効率性	12
4-1-4 インパクト	13
4-1-5 持続性	14
4-2 効果発現に貢献した要因（平和構築案件評価の視座）	15
4-3 結 論	16

第5章 教訓と提言 .....	18
5-1 教訓 .....	18
5-2 提言 .....	18
付属資料	
Minutes of Meeting (M/M) <合同評価報告書を含む> .....	23

# プロジェクト対象地域図



写



サブプロジェクト（イチゴ栽培）

真



サブプロジェクト（ラズベリー栽培）



サブプロジェクト（灌漑整備）



サブプロジェクト（牧草地再生）



プレイルーム（1）



プレイルーム（2）

## 略 語 表

BiH	Bosnia and Herzegovina	ボスニア・ヘルツェゴビナ
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
MZ	Mjesna Zajednica (Local Community)	市の下部に位置づけられる行政区
NGO	Non-Governmental Organization	非政府組織
RS	Republika Srpska	スルプスカ共和国
SAA	Stabilization and Association Agreement	安定化・連合協定
SNSD	Savez nezavisnih socijaldemokrata	独立社会民主同盟
UNDP	United Nations Development Programme	国連開発計画
USAID	United States Agency for International Development	米国国際開発庁



## 評価調査結果要約表（延長時）

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：ボスニア・ヘルツェゴビナ	案件名：スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト
分野：農業開発・農村開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部畑作地帯課	協力金額（評価時点）：約3億9,000万円
協力期間 (R/D)：2008年9月2日～ 2013年11月30日(約5年3カ月) ★延長期間：2011年9月2日～ 2013年11月30日(約2年3カ月)	先方関係機関： ボスニア・ヘルツェゴビナ人権難民省、スレブレニツァ市役所（Ministry of Human Rights and Refugees, Srebrenica Municipality）
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：なし
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>ボスニア・ヘルツェゴビナでは、1995年までに3年半にわたる紛争で、死者20万人、難民・国内避難民200万人以上という犠牲を出した。とりわけ、スレブレニツァ市は、セルビア系勢力とムスリム系勢力との激しい戦場となった地域であり、同市内においては、紛争以前の生計手段を奪われ、帰還後も苦しい生活を強いられている住民が多く、農業を含むかつての経済基盤の再興は市や住民の強い要望である。一方、ムスリム系住民とセルビア系住民の間には感情的な対立があり、地域社会における両住民間の信頼関係は薄く、またセルビア系住民は紛争後の偏った支援による不満感を有している。しかしこれまで人権難民省やスレブレニツァ市役所による農業を含む経済基盤の開発はほとんど行われておらず、関係組織による自律的な事業の継続のために、関係機関の能力向上が求められている。</p> <p>これに対し、JICAは、2006年3月から、長期専門家の派遣を通じて、特に紛争の被害の大きかった同市内のスケラニ地域及び周辺の六つのMZ（注：Mjesna Zajednica=Local Communityの意。MZは市の下部に位置づけられる行政区）において、民族の和解のために農業分野での支援を通じたコミュニティ社会の再構築と住民の経済的自立のための協力を行ってきた。</p> <p>その後、2008年9月から、スレブレニツァ市内の他MZにおいても市役所、住民、現地NGO等の関連組織が連携して事業を行うことで、これら関係機関の能力の強化と両民族協働の活動の推進を図るため、長期専門家による協力を発展させた形での技術協力プロジェクトが実施されている。プロジェクトでは、上記の協力で対象としていた6MZに加え、その周辺のMZを加えた市内12MZを対象に、ハーブ生産・加工、野菜栽培、養蜂、牧草生産、児童保育施設運営などの19事業を展開した。</p> <p>本プロジェクトは当初3年間の予定であったが、2010年6月の中間レビュー及び2011年4月の終了時評価の結果、国際機関や他国を含む支援が紛争被害の甚大であった上記12MZに集中し、経済面や両民族間の信頼醸成において成果がみられた一方で、残る7MZでは経済格差が広がり、さらに民族間の感情的対立が残ったままであることが明らかになった。そこで事業継続支援に対する先方政府の強い希望と日本側が支援を継続する政策的意義などを勘案し、スレブレニツァ市内すべてのMZを対象として市全体での信頼醸成を図ることとなり、2013年11月まで2年3カ月間、協力期間を延長することとなった。</p>	

## 1-2 協力内容

スレブレニツァ市における住民の経済的自立と、民族間の信頼が醸成された共存社会の構築を長期的に達成するため、本プロジェクトでは、ムスリム系住民、セルビア系住民が関与する農業・農村開発活動を行う。また、住民による協同活動を支援するために、これら農業・農村開発事業やその支援活動に係る情報の普及をスレブレニツァ市役所が行えるよう、同市役所職員の能力を強化する。

### (1) 上位目標

- 1) 対象地域住民の経済力が向上する。
- 2) 対象地域住民の融和が促進される。

### (2) プロジェクト目標

対象地域の住民が協同して農業・農村開発活動を行う能力の強化を通じて、これら住民間の信頼が醸成される。

### (3) アウトプット

アウトプット 1：対象地域において、住民の協同による農業・農村開発のための活動が継続的に実施される。

アウトプット 2：住民共存社会の再構築に向けた農業・農村開発のための活動に関する情報が普及される。

### (4) 投入（終了時評価調査時点）

#### 1) 日本側

長期専門家派遣：3名

チーフアドバイザー/農業普及

業務調整/住民活動支援

多民族参加型農村活動/業務調整

短期専門家派遣：2名

農産物による商品開発/商品付加価値形成

幼児保育技術指導/幼児保育施設運営支援

本邦研修：合計15名（2008年：4名、2009年：7名、2011年：4名）

機材供与：合計4,745万4,502円

現地活動費支出：合計167万4,943ユーロ（約2億2,000万円）

#### 2) ボスニア・ヘルツェゴビナ側

カウンターパート（C/P）の配置：合計5名

活動費支出：約11万4,205 KM（ボスニア・ヘルツェゴビナ通貨）（約800万円）

その他：スレブレニツァ市役所・スケラニ支所内にオフィススペース施設

## 2. 評価調査団の概要

<構成>

総括/平和構築	橋本 敬市	JICA 国際協力専門員
協力企画	平島 淳	JICA バルカン事務所 企画調査員
評価分析	河原 里恵	(株)アールクエスト

調査期間：2013年10月28日～11月13日

調査の種類：終了時評価調査（延長時）

## 3. 評価結果の概要

### 3-1 実績の確認

#### 3-1-1 アウトプットの達成状況

二つのアウトプットは概して成功裏に達成されている。以下にプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に即したそれぞれの達成状況を示す。

(1) アウトプット 1：対象地域において、住民の協同による農業・農村開発のための活動が継続的に実施される。

アウトプット 1 はおおむね達成された。これまでプロジェクトでは以下に示す 20 種の多様な農業生産活動を支援してきている。今回の評価調査時点において、栽培農地の利用問題や建築物の支障等の外部条件の変化により、キノコ栽培、ハーブ栽培、家畜市場等、一部で活動を停止中のものもあるが、概して裨（ひ）益者グループ、裨益者世帯では現在でも活発な活動を継続中であり、自立発展的に進展している事業は多いことが確認された。

- 1) イチゴ生産
- 2) 温室生産支援
- 3) 温室のビニール資材支援
- 4) 果樹
- 5) ラズベリー
- 6) ブルーベリー
- 7) 牧草地再生
- 8) 農業灌漑
- 9) ローズヒップ
- 10) 養蜂
- 11) チェスナッツ
- 12) 日本アカシア
- 13) ヘーゼルナッツ
- 14) プレ・スクール支援（プレイルーム）
- 15) ヒツジ飼育改善
- 16) ハーブ
- 17) インゲンマメ
- 18) ジャガイモ
- 19) 農業機材提供

## 20) 果樹せん定

(2) アウトプット 2：住民共存社会の再構築に向けた農業・農村開発のための活動に関する情報が普及される。

アウトプット 2 はおおむね達成された。スレブレニツァ市役所 C/P は、日本人専門家とともに、活動や裨益者により事業の進捗状況、将来の活動計画、本邦研修の内容などについて定期的な協議を実施し、共同でプロジェクトサイトの巡回などを行っている。さらに、2011 年からのプロジェクト延長期間に入ってから、C/P のプロジェクト活動での計画立案、裨益者選定やその他の実施に係る関与はさらに高まっている。

また広報の点では、2011 年 4 月の終了時評価時点に比較して、延長期間中には市役所のウェブサイト、ラジオ等のメディア、プロジェクトのウェブサイトやフェースブック等を通じて、情報の普及や発信への進展がなされてきた。今後もスレブレニツァ市役所側の努力により、プロジェクトによる 2011 年の終了時評価調査での提言をきっかけに設立された開発ユニットが、さらに広報を充実させていくことが望まれる。

### 3-1-2 プロジェクト目標の達成見込み

両民族で構成される組合では以前からの良好な民族間の関係が変わらず継続していること、またコミュニティレベルでも両民族の良好な協力関係はより強固に構築されてきていることが確認できた。さらに支援を行った農業生産活動について、ほとんどの裨益者が自立的に活動を継続・発展させていることが確認された。

専門家派遣が始まった 2006 年から合計すると農業生産活動の裨益対象世帯は延べ 7,000 を超えており、スレブレニツァ市では 1 世帯平均 5 種類程度の支援を受けてきたと考えられる。この継続的な支援の結果、農業生産の技術は組合や世帯の裨益者には順調に根づいてきており、またコミュニティレベルでの民族間の良好な協力・信頼関係やアウトプットの良好な達成状況にかんがみて、プロジェクト目標は成功裏に達成されている、と判断できる。

### 3-2 評価結果の要約

#### (1) 妥当性

プロジェクトの実施の妥当性は下記の理由により、プロジェクト開始時期から継続して非常に高い。

##### 1) ボスニア・ヘルツェゴビナ政策とスレブレニツァ市の開発戦略との整合性

プロジェクトの目標はボスニア・ヘルツェゴビナの開発戦略とスレブレニツァ市の開発目標に合致している。ボスニア・ヘルツェゴビナの中期開発戦略（2010-2014）によれば、農業生産力の向上にけん引された経済水準の向上は農業・農村開発分野の目標の一つである。またボスニア・ヘルツェゴビナは現在 EU 加盟を前提に体制整備を進めており、EU から提示された加盟のための「ロードマップ」には、多民族共存社会の再構築、少数民族の権利保障等が含まれている。そしてスレブレニツァ市の開発戦略（2013）では農業生産を通じた収入向上と多民族社会・宗教における寛容性の確保、を基本指針としてうたっている。

## 2) わが国の援助方針との整合性

日本は、2004年の「西バルカン平和定着・経済発展閣僚会合」において「平和の定着」「経済発展」「域内協力」の考えに基づき、わが国が引き続き積極的な貢献を行うとし、ボスニア・ヘルツェゴビナの和平履行に主体的に関与してきた。対ボスニア・ヘルツェゴビナ国別援助方針（2012年4月）では「平和の定着」は重点分野と位置づけられている。

## (2) 有効性

アウトプット1とアウトプット2が達成された結果、プロジェクト目標はおおむね達成された。アウトプットとプロジェクト目標の関係性は問題なかったと判断される。

プロジェクト開始当初は、とりわけ両民族の混合によりメンバーが構成されている組合を通じた活動への支援をフォーカスし、民族を問わず支援対象者（優先対象者は、帰還者、女性世帯主の世帯、戦禍による障害者）とすることで、両民族の関係の親密性や意思疎通の機会を高め、また両民族への平等な支援を行うことにより、住民の活動参加に高い動機づけをもたらす結果となった。

信頼醸成の推進についての定量的測定は困難であるが、プロジェクトが実施した裨益者を対象とする民族間の経済水準と信頼醸成の関係を測った調査（2010年）によれば、返答者の51%が「異なる民族間の交流機会は増加した」、38.4%は「プロジェクトが実施されたことによりその関係はより改善された」と返答している。

## (3) 効率性

下記の理由によりプロジェクト実施の効率性は高い。

プロジェクトにおける投入は、おおむねアウトプットの達成に有効に活用され、計画された活動は、大きな遅延はなく実施されてきた。同一の専門家が2006年3月から継続的に長期間にわたり対象地域での協力を携わり、また他の専門家もあわせて当地に居住してきた。このため、現地のニーズの確認や裨益候補者の選定はスムーズに行え、プロジェクト計画立案、実施、技術移転や対象地域での活動のモニタリングは的確かつ効率的に行うことができた。

## (4) インパクト

プロジェクトの裨益者（農民）が今後、プロジェクトで達成した効果を持続すれば、上位目標は達成可能である、と予測される。

経済面に関しては、2013年にプロジェクトが実施したサンプル世帯を対象とするインパクト調査の結果によれば、2011年のプロジェクト期間延長前に対象地域であった12MZでは、2013年には年間収入が高い（6,000KM以上）世帯の数は著しく増加し、またかなり低い（500KM以下）世帯の数は減少している。2011年のプロジェクト延長後に新たな対象地域となった7MZでも2010年の支援開始前と比較し、2013年では年収増加で、同様の傾向にあることが分かった。

民族共存の観点でも、民族混合の農業・農村開発活動等を通じて、対象地域で民族共存の事例（民族の区別のない就学前教育の定着や小規模農村給水事業等）が散見されている。

近年、クロアチアの EU 加盟（2013 年 7 月）やセルビアによる EU 加盟交渉の本格化に伴い、ボスニア・ヘルツェゴビナ国内において各民族の独立の機運が高まっており、民族間の対立をあおるような政治的な宣伝活動（いわゆるヘイトスピーチ）が増加している。プロジェクトによる経済的安定や民族共存は、この不安定要因に対する強靱性強化の一つであり、ポジティブなインパクトといえる。

#### (5) 持続性

以下の 1) 組織的側面、2) 財政的側面、3) 技術的側面から、持続性は中程度と判断される。

##### 1) 組織的側面

スレブレニツァ市役所の開発ユニットは本プロジェクトの終了時評価における提言を契機に設立され、その責務の中心はドナー支援の計画立案や調整である。同市は本プロジェクト支援を契機に設立されたプレイルームの教員の給与を負担してきており、プロジェクト終了後もプレイルームは継続される予定である。

##### 2) 財政的側面

同市における 2014 年度（会計年度は 1 月開始）の農業・農村開発の活動予算は増加予定であり、この政策が今後も継続されるならば、農業生産・農村開発活動における持続性は高いと予測できる。

##### 3) 技術的側面

裨益者である農民は、本プロジェクトで得た農業生産の技術と知識を生かし、サブプロジェクト終了後も自力で多様な農業生産活動を活発に実施している。今後も、農民がこれらの技術と知識を活用し、農業生産活動を発展させていくことが期待される。

#### (6) 効果発現に貢献した要因（平和構築案件評価の視座）

##### 1) 裨益者の選定

農業・農村開発活動は、両民族が均等に選定されることを前提として、基準を設けて実施している。

##### 2) 各プロジェクトにおける民族間協力

専門知識を有する者が、民族を問わず新規参加者に指導・アドバイスを行うシステムが確立し、良好な関係が構築されている。

##### 3) 小規模農村給水事業

同一の水源から両民族が水の供給を受けることができるようになり、潜在的な対立の要因を排除した。

##### 4) 就学前教育施設設置

ボスニア・ヘルツェゴビナでは現在、「就学前教育」は義務教育であるにもかかわらず

ず、財政難やリソース不足等から、わずか 6.4%の幼児しか幼稚園・保育園等にアクセスできていない (UNICEF)。そこで、本プロジェクトでは民族による区別なくプレイルームを設置し、両民族の両親及び幼児たち自身が時間を共有する場として信頼醸成の機会を提供している。

#### 5) 対象地域拡大による経済格差の是正

本プロジェクトは当初、19MZ 中 12MZ を支援対象とし、プロジェクト期間内に所定の成果を上げるに至ったが、対象外だった 7MZ の経済発展を支援しないまま撤退することは、格差による不満が政治的に利用される懸念を残すとともに、既に達成された成果に対しても負のインパクトを与える蓋然性があるとの判断により、プロジェクト期間を延長し、支援対象を全土に拡大した。その結果、経済レベルが市全体で標準化され、不満を暴力に転嫁させるような政治環境に抗し得る **resilience** (強靱性) を向上させた。

#### 6) ボスニア・ヘルツェゴビナ国内での TV 放映

本プロジェクト終了に際し、同地域における和解促進の努力を TV 番組として撮影し、同国の公共放送局 (BHRT) で放映した。同番組は「第 2 次世界大戦後、欧州最大の悲劇」と呼ばれた虐殺の現場で、加害者と被害者の共存が実現し得たことを紹介するドキュメンタリーであり、ボスニア他地域の住民に共存の可能性を示し国内で大きな反響を呼んだ。

## 4. 結 論

本プロジェクト目標は延長期間終了時までにおおむね達成される見込みであり、本プロジェクトは予定どおり 2013 年 11 月末をもって終了する。

成果 1 については、延長期間においてスレブレニツァ市全域がカバーされた結果、20 種の活動が実施され、裨益人口は総計 7,553 世帯 (セルビア人 3,669 世帯、ムスリム 3,884 世帯) に至った。

成果 2 については、市役所による関連ウェブサイトの立ち上げ、プレイルーム教員たちによるフェイスブックを通じた情報交換などにより、民族の垣根を越えた情報の伝達が行われている。このような情報公開・交換による透明性の確保は、多民族社会安定化に必須の課題であり、本プロジェクトの枠内で行われているこうした努力が、民族共存を後押ししているのは間違いない。

また本プロジェクトの提言により発足した市役所の開発ユニットは、広く住民のニーズに関する声を集めるとともに、開発関連情報の普及に従事する責務を負っており、両民族の「知る権利」を満たすうえで中核的役割を果たしている。

このように本プロジェクトはこれまで予想を上回る成果を上げてきたといえる。これまで支援の対象とされてこなかった地域や民族にも焦点を当て、また民族の区別のない農業・農村開発活動、就学前教育、小規模農村給水事業等を通じて、民族が共存した経済・社会活動の基盤を形成できた意義は大きい。

## 5. 教訓と提言

### 5-1 教訓

本終了時評価で確認された教訓は以下のとおりである。

#### (1) 迅速な事業の開始

異なる民族の住民間の信頼醸成を趣旨とする案件の場合、技術協力プロジェクト実施方法は柔軟性を確保し、できるだけ時間をかけずに活動を開始することが望ましい。

#### (2) 異なる種類のインパクトの組み合わせ

短期間で目に見える成果を出すことができるサブプロジェクトと、時間はかかるが平和を実感できるような成果を出せるサブプロジェクトを組み合わせることは有効である。

#### (3) 適時・適切な情報普及

本プロジェクトでは、両民族が平等であることを基礎とし、一定のクライテリアに準拠した選定が実施されているとはいえ、非裨益者（時には裨益者さえ）からの不満の声も聞かれる。こうした不満は容易に政治的に利用され得るため、各サブプロジェクトにおいては選定過程において、市役所担当者の参加をはじめ、第三者のモニタリングを義務づけるとともに、決定事項については市役所広報等で、「次回プロジェクトの対象は以下のとおり。選定は以下の基準により実施された」等、広くその透明性を周知する努力を行うべきであろう。また、「耕運機の所在が不明」「特定の者だけが供与機材を占有している」等の不満が出ないように、プロジェクトの実施プロセスにおいても、供与された機材がどのように活用されているかフォローする等の工夫が必要である。

#### (4) 経済的自立と意識の変化

経済開発と紛争の関係はまだ学問的には立証されていないが、本プロジェクトを通じ、裨益者の経済状況の改善と和解（他民族に対する寛容レベル）の進展が実証的に示された。プロジェクトが実施した裨益者調査では、「良好な共存関係を維持するうえで必要なもの」として、回答者 255 人全員が経済活動（「農業への投資」「牧畜」「工場開設」など）を挙げている。

### 5-2 提言

7 年半に及ぶ支援の結果、スレブレニツァ市は経済的側面からみれば、自立性の高い農業共同体となった。プロジェクト終了後にはスレブレニツァ市役所の管理の下、現地 NGO 等の住民グループがベリー類の栽培や牧草地の整備、養蜂業等の活動を生計の手段として自発的に維持していくことが期待される。

他方、共存状況の維持についても、継続的な努力が望まれる。2 年ごとの選挙（国と県レベル、市町村レベルの選挙が 2 年の間隔を置いてそれぞれ 4 年周期で行われる）のたびに全土で展開される民族主義的プロパガンダや、コソボ独立後のスルブスカ共和国（Republika Srpska :



RS) 指導者による分離主義的戦略は大きな障害となる可能性がある。この影響を防ぐためには、民族を区別しない農業・農村開発活動や学校制度等、多様性を受け入れる経済的・社会的な制度設計を強固にする必要がある。

スレブレニツァ市において、両民族に対し、常時偏りのない情報を提供し続け、経済・社会活動を平等に支えていくうえで、開発ユニットの役割が極めて大きい。市役所には同ユニットのタームズ・オブ・レファレンス（TOR）をより明確化し、必要予算とスタッフ確保を継続的に実施するよう強く要望したい。

## 評価調査結果要約表（延長時）

<b>1. Outline of the Project</b>	
Country: Bosnia and Herzegovina(BiH)	Project Title: The Project for Confidence-Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development
Issue/sector: Agriculture/Rural Development	Cooperation Scheme: Technical Cooperation Project
Division in Charge: Rural Development Department, Field Crop Based Farming Division	Total Cost (as of the time of evaluation): 390 million yen
Period of Cooperation: (R/D): August 2008 – August 2011 (3 years) + (Extension) September 2008 to November 2013 (2 year and 3 months) In total 5 year 3 months	Partner Country's Implementing Organization: Ministry of Human Rights and Refugees, Srebrenica Municipality
	Supporting Organization in Japan: -
	Other Related Organization: -
<b>1-1. Background of the Project</b>	
<p>The Srebrenica Municipality was one of the most seriously devastated areas during the Bosnian War, which was the conflict among the several ethnic groups in BiH in the early 90's. The significance of tragedies was widely shared in the international community. Japan, which has been playing a positive role in the state building process of the newly established country as a member of the Steering Board of the Peace Implementation Council (PIC), has been laying emphasis on the confidence building among the ethnic groups in the war-torn city of Srebrenica.</p> <p>Japan International Cooperation Agency (JICA) started its support for the Municipality in October 2004, dispatching an agricultural and rural development expert to Skelani, eastern part of Srebrenica, to carry out field surveys and pilot activities. A wide range of development potential was identified through these activities to formulate a project with multiple objectives: (1) to develop a basis for enabling environment for confidence-building; and (2) to promote local development through agricultural and rural development activities. It was recognized that development activities in the post-conflict multi-ethnic society should adopt a community based approach that would give a better chance for an outside assistance to play a catalytic role in a fair manner. With this recognition, both Governments agreed to implement the project through technical cooperation scheme of JICA for duration of 3 year from August 2008 to August 2011.</p> <p>In accordance with the recommendation of the joint evaluation conducted by BiH and Japan in April 2011, both sides agreed to extend the Project period until November 2013 and to add 7 more MZs to cover all 19 MZs in Srebrenica Municipality.</p>	

## 1-2. Project Overview

### (1) Overall Goal:

- 1) The economic situation of the targeted population is improved.
- 2) Reconciliation of people in the target area is promoted.

### (2) Project Purpose:

Confidence among the targeted population is built through strengthening the capacity to manage agricultural and rural development joint activities

### (3) Outputs

Output 1: Agricultural and rural development activities are implemented continuously by the targeted people

Output 2: Information about agricultural and rural development for re-building co-existent society is disseminated.

### (4) Inputs (as of the time of evaluation)

#### 1) Japanese side

Dispatch of Japanese 3 persons

Experts, Long-term:

- Chief Advisor/Agriculture Extension
- Rural Development/Project Coordinator
- Multi-ethnic Participatory Rural Activities/Project Coordination

Dispatch of Japanese 2 persons

Experts, Short-tem:

- Merchandise Development/ Addition of Commercial Value on Prod
- Adviser for Education Techniques and Management System  
Pre-schools Education

Training in Japan: In total 15 persons (4 in 2008, 7 in 2009 and 4 in 2011)

Provision of

Equipment/Machinery: 47,454,502 Yen

Local Expense: 1,674,943 Euro Currency

#### 2) BiH side

Deployment of Counterpart 5 persons

(C/P) :

Expense: 114,205 KM (BiH Currency))

Others: Office space was provided by Srebrenica Municipality

<b>2. Evaluation Team</b>		
<Member>		
Team Leader/ Peace Building	Dr Keiichi HASHIMOTO	Senior Advisor (Peace Building), JICA
Cooperation Planning	Mr Jun HIRASHIMA	Project Formulation Advisor, JICA Balkan Office
Evaluation Analysis	Ms Rie KAWAHARA	R-Quest Corporation
<p>Period of Evaluation: October 28 to November 13, 2013</p> <p>Type of Evaluation: Terminal Evaluation (Extension )</p>		
<b>3. Results of Evaluation</b>		
<b>3-1. Achievements</b>		
<b>3-1-1. Outputs</b>		
<p>In general, it is evaluated that the levels of achieving the two (2) Outputs were satisfactory. In the following, status towards achieving two (2) Outputs based on the indicators of PDM is described.</p> <p>(1) Output 1: Agricultural and rural development activities are implemented continuously by the targeted people</p> <p>20 different types of agricultural production activities below have been supported by the Project. Most of them have been actively carried sustainably by efforts of beneficiary groups or individuals while some activities, mushroom, herb and animal market, were suspended due to external factors. The programs for sheep distribution, blueberry production and vegetable seedling production have been also introduced after 2011.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Strawberry</li> <li>2) Greenhouse</li> <li>3) Vinyl for Green House</li> <li>4) Fruits planting</li> <li>5) Raspberry</li> <li>6) Blueberry</li> <li>7) Grassland recovery</li> <li>8) Irrigation</li> <li>9) Rosehip</li> <li>10) Apiculture</li> <li>11) Chestnut</li> <li>12) Japanese Acacia</li> <li>13) Hazelnut</li> <li>14) Kindergarten (Playroom)</li> <li>15) Sheep</li> <li>16) Herb</li> <li>17) Kidney beans</li> </ol>		

- 18) Potato
- 19) Agro-machinery
- 20) Pruning

(2) Output 2: Information about agricultural and rural development for re-building co-existent society is disseminated.

Output 2 has been made progress since 2011 as compared prior. C/Ps of the Srebrenica Municipality, together with JICA Experts, surveyed the Project sites and also conducted a series of discussions on progress of field activities and future activities. In particular, since 2011, C/P have played roles on planning decision on the Project activities as compared prior. Information sharing and dissemination on progress of the Project activities have become more active through a website of the municipality, radio, the Project web-site and Facebook etc..

Following a suggestion made at the terminal evaluation in 2011, Development Unit was established in Srebrenica Municipality. However it is suggested that the Development Unit promote dissemination of information in future by Srebrenica Municipality

**3-1-2. Achievement of Project Purpose:** Confidence among the targeted population is built through strengthening the capacity to manage agricultural and rural development joint activities”

It is assessed that the Project Purpose has been met satisfactory levels of achievement in the following reasons. As stated before, through 20 different agricultural activities, confidence and relations between different ethnics in beneficiary groups and target communities have been becoming more firms. It was observed that most of beneficiaries have also increased a sense of self-dependence on production, and strengthened confidence on interpersonal relations more in the communities as their income level grows.

Numbers of beneficiary households are more than 5,000 since 2006, when the Expert for the previous cooperation was dispatched in the Municipality. This number shows that all the households which are assumed about 1,600 in 2013 in the Municipality have participated at least about 3 different types of the Project activities. As a result of the continuous cooperation and beneficiaries’ participation into the Project, agricultural production techniques and knowledge have firmly rooted among beneficiary groups and individual households.

### **3-2. Evaluation based on the Five Criteria (Summary)**

#### (1) Relevance

It is evaluated that relevance of the Project implementation has been very high in the following reasons:

##### 1) Policies of BiH and Development Strategies of Srebrenica Municipality

The Project is in line with development strategy formulated by both the BiH strategy and the municipality targets. Medium-term strategy of BiH in 2010 to 2014 (draft) stipulates development of

agricultural production, and income increase as one of the key targets in the agricultural and rural development sector. Development Strategies of Srebrenica Municipality also state that enhancing agriculture production, which aims to an increase in an income level, and building an opened society of multi-ethnicities and religions, are major operational objectives.

## 2) Consistency with Japan's Assistance Policies

It was stated at the Ministerial Conference on Peace Consolidation and Economic Development of the Western Balkans held in Tokyo in 2004 that "Japan will actively contribute to Western Balkans peace consolidation, economic development and regional cooperation". One of the priority areas of Japan's assistance to BiH is Peace Consolidation and Reconciliation.

### (2) Effectiveness

It is found that Project Purpose has been mostly achieved. Through 20 different types of activities supported by the Project, the Project met its purpose. These activities, in particular, at the beginning stages of the Project period were conducted by the multi-ethnic composed organizations, and those beneficiaries including both ethnicities have increased opportunities to communicate more by taking part in the activities.

While there is no definite quantitative measure to evaluate the extent of "confidence" according to a "Beneficiary Survey for Economic Situation and Reconciliation between Two Ethnic Groups" carried out by the Project in 2010 (referred to as "Beneficiary Survey") shows that 51 % of the beneficiaries recognize that the number of opportunities to interact with other ethnic groups have been increased by the Project. Moreover, 38.4 % of them answered that the relationships with other ethnic groups would not have been improved if the Project had not been implemented.

### (3) Efficiency

Efficiency of the Project is evaluated relatively high, since most of inputs were effectively utilized in order to attain Outputs, and planned activities were carried out as they were planned in timely manners. Continuity of the JICA Expert from the previous period since 2006 made possible to conduct the Project planning and implementation in smooth because needs identifications and contacts of prospect beneficiaries were already firm, and good relations with C/Ps were established prior to a start of the Project in 2008.

In particular, JICA Experts have lived at the target areas throughout the Project period, and this made needs identification, confirmation, monitoring on activities and technical transfer to C/Ps and beneficiaries on the ground highly effective.

### (4) Impact

It is evaluated that Overall Goal will be achieved, as long as the present attainment of the Project is sustained further by the beneficiaries in the target communities.

According to a preliminary result by a survey conducted in October and November, 2013 by the Project, it is found that number of households with higher income (more than 6,000 KM) has drastically increased, and households in lower income (less than 500 KM) have decreased in 12MZs comparing to the results of 2008 and 2010. The same tendency is also observed in the 7 MZs by comparing the data of 2010 and 2013. It is noted that in the years when the studies carried out (2008, 2010, 2011 and 2013), no major fluctuation of yields due to a climate change etc. was occurred.

There is no established methodology to numerically/quantitatively evaluate the progress on “promotion of reconciliation among people” which is one of the Overall Goals. However, following cases in the target communities are regarded as good signs to foresee to meet Overall Goal.

- Sharing water sources for irrigation
- Sharing collection points/venues of agricultural production such as raspberry and milk
- Exchange of agricultural machinery services

As an unexpected effect by the Project, it is observed that the Project support on grassland recovery invited development assistance such as cow distribution to farmers from other international organizations.

#### (5) Sustainability

##### 1) Institutional Aspects

Development Unit at the Srebrenica Municipality was established during the Project period as a focal point to plan and coordinate the donor supports. It is expected that this Unit will be functioning for a channel to utilize resource inflow into the Municipality effectively. Srebrenica Municipality has allocated salary of teachers in the Playrooms, and according to the interview result during the evaluation study, Mayor showed intension of continuity of the Playrooms after the Project.

##### 2) Financial Aspect

Srebrenica Municipality expressed an intention to increase budget for agricultural and rural development projects in the coming Fiscal Year 2014. With this policy maintained further, financial sustainability on supporting agricultural production and rural development activities is positive.

##### 3) Technical Aspects

It is observed that agricultural production technologies and knowledge assisted by the Project have been rooted on the ground firmly, and beneficiaries are highly expected to continue using the technologies for reproduction of farming in self-sustained manners.

## **4. Lessons Learnt and Recommendations**

### **4-1. Lessons Learnt**

#### (1) Quick launching

It would take a longer time to realize reconciliation, if mutual distrust were left untouched longer. So it

would be desirable to address the issue with as short preparation periods as possible by adopting flexible interpretation of methods of technical cooperation.

(2) Combination of “quick impact” and “dividend of peace”

It is quite significant to show fruits of the projects as soon as possible to acquire trust among inhabitants. But on the other hand, it would make them realize the dividend of peace if they see the totally changed rural scenery with longer-term sub-project of agriculture. The combination of those sub-projects of different nature would make the impact bigger.

(3) Dissemination of information

Even though the selection of beneficiaries has been implemented based on fair criteria, it was inevitable that distributions of support-materials became seeds of discontent among non-beneficiaries, or sometimes even among beneficiaries. Those kinds of discontents could be easily manipulated politically, as we could see in conflict-prone situations.

So it is advisable that information on the procedures including those criteria, selection process and so forth, would be widely disseminated at an appropriate timing.

(4) Relation between economic empowerment and change of mind-set

It has been proved in the course of the project that job-creation and empowerment are the appropriate means to build confidence among inhabitants.

#### **4-2. Recommendations**

The project covered the whole municipality by addressing the remaining 7 MZ during the expanded period and, according to the preliminary results of the beneficiary survey carried out in October-November 2013, succeeded in improving the economic situation of the inhabitants by 30-40% on average compared with the incomes in 2011. Especially those farmers who are engaged in raspberry production, apiculture, sheep breeding, and milk collection have established a stable livelihood.

During the extended period, the project began to support sheep breeding, which has proved to be effective in ensuring a fixed income. At the beginning of the extended period, the project focused on the remaining 7 MZ to fill the gap between the formerly targeted areas and the 7 MZ. But since 2012, the support has been extended to the whole 19 MZ, which contributed to the standardization and total improvement of the economic situation of the inhabitants.

As the result of this standardized improvement, the living atmosphere of the municipality has been greatly ameliorated and the reconciliation of the two ethnic groups has been advanced as could be seen in the above-mentioned phenomena.

With the notion just mentioned, the Joint Evaluation Team is of the opinion that the project has successfully accomplished its objectives, both in term of confidence-building and agricultural/rural development, and that it could be terminated as scheduled.

But taking into consideration of the fact that the environmental situations of BiH remain fragile, the Team recommends the local stakeholders to continue their efforts to strengthen the sustainability of the



outputs. In the long run, the Municipality and C/Ps of the Project will transfer the acquired knowledge and skills onto the neighboring municipalities for a wider peace and confidence building as to contribute further to the stability of the country and its preparation for the European integration.

# 第 1 章 評価調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

### 1-1-1 経緯

ボスニア・ヘルツェゴビナでは、1995 年までに 3 年半にわたる紛争で、死者 20 万人、難民・国内避難民 200 万人以上という犠牲を出した。とりわけ、スレブレニツァ市は、セルビア系勢力とムスリム系勢力との激しい戦場となった地域であり、同市内においては、紛争以前の生計手段を奪われ、帰還後も苦しい生活を強いられている住民が多く、農業を含むかつての経済基盤の再興は市や住民の強い要望である。一方、ムスリム系住民とセルビア系住民の間には感情的な対立があり、地域社会における両住民間の信頼関係は薄く、またセルビア系住民は紛争後の偏った支援による不満感を有している。しかしこれまで人権難民省やスレブレニツァ市役所による農業を含む経済基盤の開発はほとんど行われておらず、関係組織による自律的な事業の継続のために、関係機関の能力向上が求められている。

これに対し、JICA は、2006 年 3 月から、長期専門家の派遣を通じて、スレブレニツァ市内のスケラニ地域及び周辺の特に紛争の被害の大きかった六つの Mjesna Zajednica (MZ：市の下部に位置づけられる行政区) において、民族の和解のために農業分野での支援を通じたコミュニティ社会の再構築と住民の経済的自立のための協力を行った。

その後 2008 年 9 月からは、上記の協力で対象としていた 6MZ に加え、その周辺の MZ を加えた 12 の MZ に対象を拡大し、市役所、住民、現地 NGO 等の関連組織が連携して事業を行うことで、これら関係機関の能力の強化と両民族協働の活動の推進を図るため、長期専門家による協力を発展させた形での技術協力プロジェクト「スレブレニツァ地域における信頼醸成のための農業・農村開発プロジェクト」(以下、「本プロジェクト」と記す) が実施された。

本プロジェクトは当初 3 年間の予定であったが、2010 年 6 月の中間レビュー及び 2011 年 4 月の終了時評価の結果、国際機関や他国を含む支援が紛争被害の甚大であった上記 12MZ に集中し、経済面や両民族間の信頼醸成において成果がみられた一方で、残る 7MZ では経済格差が広がり、さらに民族間の感情的対立が残ったままであることが明らかになった。そこで事業継続支援に対するボスニア・ヘルツェゴビナ政府の強い希望と日本側が支援を継続する政策的意義などを勘案し、スレブレニツァ市内すべての MZ を対象として市全体での信頼醸成を図ることを目的とし、協力期間を 2013 年 11 月までの 2 年 3 カ月間延長した。

### 1-1-2 目的

今回の終了時評価調査は、ボスニア・ヘルツェゴビナ関係機関と合同で、以下の点から評価を実施することを目的として実施した。

- (1) プロジェクト延長期間 (2011 年 9 月から 2013 年 11 月までの約 2 年 3 カ月間) の成果と実績について確認する (特に、延長後に協力を開始した 7MZ の成果発現状況を確認する)。
- (2) プロジェクトの開始から現在までの実績と計画に対する達成度を、前回の終了時評価結果を踏まえて評価する。
- (3) 本協力の実施による教訓及び住民間の信頼醸成に寄与した要素について確認し、前回の終了時評価で確認した点につけ加える。
- (4) ボスニア・ヘルツェゴビナ側評価委員と合同で合同評価報告書を作成 (前回の合同評価

報告書の改訂) し、協議の結果をミニッツに取りまとめる。

## 1-2 調査団の構成と調査期間

### 1-2-1 調査団の構成

担当分野	氏名	所属
総括/平和構築	橋本 敬市	JICA 国際協力専門員
協力企画	平島 淳	JICA バルカン事務所 企画調査員
評価分析	河原 里恵	(株)アールクエスト

### 1-2-2 ボスニア・ヘルツェゴビナ側評価委員

担当分野	氏名	所属
Leader	Mr. Dane Katanic	Head of Department for Economy and Development, Srebrenica Municipality
Member	Mr. Bego Bektic	Head of Department for Social Affairs and Public Services, Srebrenica Municipality

### 1-2-3 調査期間

2013年10月28日～11月13日(17日間)

## 1-3 プロジェクトの概要

### (1) 実施機関

ボスニア・ヘルツェゴビナ人権難民省 (Ministry of Human Rights and Refugees)  
スレブレニツァ市役所 (Srebrenica Municipality)

### (2) プロジェクトサイト

スレブレニツァ市内の19MZ(当初12MZにプロジェクト延長時新たに7MZを対象に追加)

### (3) 協力期間

2008年9月2日～2013年11月30日(約5年3カ月)

★延長期間: 2011年9月2日～2013年11月30日(約2年3カ月)

### (4) 上位目標

- 1 対象地域住民の経済力が向上する。
- 2 対象地域住民の融和が促進される。

### (5) プロジェクト目標

対象地域の住民が協同して農業・農村開発活動を行う能力の強化を通じて、これら住民間の信頼が醸成される。

(6) 成 果

- 1 対象地域において、住民の協同による農業・農村開発のための活動が継続的に実施される。
- 2 住民共存社会の再構築に向けた農業・農村開発のための活動に関する情報が普及される。

(7) 活動（★は、延長後に追加、修正された項目）

- 1-1 対象地域の住民及びスレブレニツァ市役所が、地域の有用技術や人材、資源などを発掘する。
- 1-2 対象地域の住民が農業を中心とした収入向上活動（ハーブ生産・加工、牧草生産、養蜂等の小規模な事業等）の計画を策定する。
- 1-3 対象地域の住民が農業を中心とした収入向上活動を実施する。
- 1-4 対象地域の住民が生活改善活動（母子家庭共同保育等）を導入する。
- ★1-5 スレブレニツァ市役所が、住民間の信頼醸成を促す有効な農業・農村開発活動を選定し、市内全域に展開する。
- ★1-6 対象地域の住民及び住民組織が市内全域に農業・農村開発活動のノウハウを普及し、同活動に参加する。
- 1-7 スレブレニツァ市役所と住民が活動をモニタリングする。
- 2-1 スレブレニツァ市役所が農業・農村開発活動に関する情報（活動事例等）を収集し記録する。
- ★2-2 スレブレニツァ市役所がプロジェクト活動から教訓を蓄積する。
- ★2-3 スレブレニツァ市役所が、プロジェクトの経験や教訓を地域社会と共有するための情報普及活動をより積極的に実施する。

(8) 各種評価調査実績

これまでの各種調査は以下のとおりである。

- ①事前調査（2008年3月10日～3月22日）
- ②中間レビュー調査（2010年6月9日～6月27日）
- ③終了時評価調査（2011年4月3日～4月16日）

## 第2章 終了時評価調査の方法

### 2-1 調査方法（合同評価）

本終了時評価はボスニア・ヘルツェゴビナ側2名と日本側3名による合同評価チームにより実施された。評価調査では、プロジェクト資料の分析、訪問調査、日本人専門家、カウンターパート（C/P）や裨（ひ）益者への聞き取り調査や議論等の方法を通して、以下の事項についてプロジェクトにおける達成度や実績の把握と確認を行った。

- (1) アウトプット、プロジェクト目標の達成度
- (2) 実施プロセス
- (3) 下記の評価5項目の把握

表2-1 評価5項目の定義

評価5項目	JICA 評価ガイドラインによる定義
1. 妥当性	妥当性ではボスニア・ヘルツェゴビナの開発目標や裨益者のニーズとプロジェクト目標と上位目標が論理的に合致しているか、を検証する。
2. 有効性	有効性ではプロジェクトの効果が計画どおりにどの程度、発現しているかを確認する。加えて、裨益者がプロジェクトの効果を裨益できているか、を検証する。
3. 効率性	効率性では、実施プロセス、プロジェクトでの投入が効率的にアウトプット達成に結びついているか、を検証する。
4. インパクト	インパクトではプロジェクト実施の結果、直接、間接的、あるいはポジティブ、ネガティブに影響が生じているか、また上位目標の達成可能性を検証する。
5. 持続性	持続性では、スレブレニツァ市役所がプロジェクトで達成した効果をボスニア・ヘルツェゴビナ政策、制度や財政等の面において持続、発展可能かどうかを検証する。

### 2-2 評価調査の制約

平和構築の評価については、「何をすれば平和が構築されるか」という課題を評価するにあたり普遍的な指標は存在せず、「何ををもって成果とするか」という点についてコンセンサスも得られにくいことから、これまでのところ確立された評価手法は存在しない。かかる点については、終了時評価調査時と同様、調査団として本案件を評価するに際し評価5項目に基づく従来の評価では十分ではないことを認識し、一連の聞き取り結果やプロジェクトが実施した住民対象の意識調査結果等を十分に検証するとともに、住民間の協力や協同での行動等を示す事例を収集し、評価ではそれらの変化の把握や判断も参考とした。

## 第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス

### 3-1 投入

#### 3-1-1 日本側

##### (1) 専門家の派遣

以下の分野で長期専門家3名が派遣された。

- ・チーフアドバイザー/農業普及
- ・業務調整/住民活動支援
- ・多民族参加型農村活動/業務調整

加えて、下記の2分野で2名の短期専門家が派遣された。

- ・農産物による商品開発/商品付加価値形成
- ・幼児保育技術指導/幼児保育施設運営支援

##### (2) C/Pの本邦研修受入れ

合計で15名の研修（内訳は、2008年に4名、2009年に7名、2011年に4名）受入れとなり、その研修内容は「コミュニティ開発」及び「地元産業の育成」であった。

##### (3) 資機材の供与

供与された資機材は付属資料（合同評価報告書 Annex 5）のとおりである。

##### (4) ローカルコスト

2008年から2013年までの活動実施のために日本側が支出したローカルコストは、合計167万4,943ユーロである。

#### 3-1-2 ボスニア・ヘルツェゴビナ側

##### (1) C/Pの配置

スレブレニツァ市役所により合計で5名が配置された。詳細は付属資料（合同評価報告書 Annex 7）のとおりである。

##### (2) 施設

スレブレニツァ市役所がスケラニ支所内にプロジェクト活動に必要なオフィススペース施設を提供した。

##### (3) ボスニア・ヘルツェゴビナ側の活動費負担

プロジェクトのオフィススペースの光熱費、プレイルームのスタッフの給与の一部、灌漑施設の建設費の一部等を負担し、2008年から2013年の合計で11万4,205 KM（ボスニア・ヘルツェゴビナ通貨）であった。詳細は付属資料（合同評価報告書 Annex 8）のとおりである。

### 3-2 2011年4月の終了時評価調査での提言への対応

2011年4月の終了時評価調査で提言された3種の延長期間に行うべき活動の対応として、実施された主な活動は以下のとおりである。

#### (1) 2011年4月から3期の農業作業期間を含むこと

プロジェクトでは2013年11月までの延長期間中に3回の農業期を含んでいた。提言を受けて3回の農業期を加えることで、それまでに対象となった地域で支援が行われてきた農業生産技術の定着は根強いものとなった。また新たに支援対象となった地域でも3回の生産期間の支援を行うことは、有効な結果となったといえる。

#### (2) 新たな対象地域への農業技術ノウハウと教訓の普及

延長期間においてそれ以前からの対象地域である12MZで展開されてきた農業・農村開発活動が新たな対象地域へ同様に導入された。延長前の2011年以前に活動を開始した養蜂等の幾つかの組合やNGOは新たな対象地域でもそのメンバーを増やしてきた。新たな対象地域への農業生産に関する技術移転では優秀なスキルや知識を有する農民の活用を行ってきた。

#### (3) C/Pの日本研修

2011年に2名のスレブレニツァ市役所職員と2名の裨益者代表が日本での研修を受けた。詳細は付属資料（合同評価報告書Annex 4）のとおりである。

### 3-3 2011年4月の終了時評価調査以降の主な活動

プロジェクトの延長期間に、以下の活動が新たに開始された。その結果、付属資料（合同評価報告書Annex 9）に示すとおり、合計で20種の活動の展開となった。

- ・ヒツジの配布/ヒツジ飼育改善
- ・農業灌漑（給水）
- ・野菜の種子の栽培
- ・ブルーベリー栽培
- ・牧草地再生

これらの新規の活動は、旧来の支援地域である12MZにも展開された。

### 3-4 成果の達成状況

二つのアウトプットは概して成功裏に達成されている、と判断できる。以下にプロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）に即したそれぞれの達成状況を示す。

アウトプット1：対象地域において、住民の協同による農業・農村開発のための活動が継続的に実施される。

アウトプット1はおおむね達成された。

表3-1に延長期間を含む進捗の概要を整理した。今回の評価調査時点において、栽培農地の利用問題や建築物の支障等の外部条件の変化により、キノコ栽培、ハーブ栽培、家畜市場等、一

部で活動を停止中のものもあるが、おおむねの裨益者グループ、裨益者世帯では現在でも活発な活動を継続中であり、自立発展的に進展している事業が多いことが確認された。

表 3-1 アウトプット1の達成状況

指 標	達成状況	
住民グループ、MZ、現地 NGO 等、関連組織による活動の実施状況	主な活動・事業内容は下記のとおりである。	
	組合・組織名	主な活動・事業内容
	Dom (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>トンネルを利用したキノコ栽培。しかし、土地使用の問題で栽培は停止中である。</li> </ul>
	Drina Skelani (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に果樹植え付け、プラム・ラキア（果実酒）生産、露地野菜栽培を実施している。</li> </ul>
	Eco Gradina (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>インゲンマメ品種改善、ラズベリー、露地野菜栽培を実施している。</li> </ul>
	Several MZs including Kostolomci MZ, Osat MZ, Podravanje MZ and Skelani MZ (MZ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>小規模農村給水（灌漑、家庭用の両利用向け）の建設・運営を実施している。</li> </ul>
	New Hope (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>延長時の終了時評価時点においても活発にプロジェクト-裨益者間の中間役として（プロジェクトによる委託を受け）その活動を行っている。</li> <li>草地再生、ラズベリー、ローズヒップ植え付け、小規模農村給水を実施している。</li> </ul>
	Orhideja (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室イチゴ生産、家畜市場運営を行っている。家畜市場運営の活動は疾病と建築物に支障が発生したため、停止中である。</li> </ul>
OSAT (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>延長時の終了時評価時点においても活発に活動を行っている。</li> <li>Osat MZ 周辺で 4MZ の養蜂を任されている。</li> </ul>	



	Podorinje1 (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室野菜栽培、ハーブ生産加工、乾燥場の管理を実施している。三つの組合により設立された Plodona Dolina (下段参照) が実施する共同事業の中心的存在である。</li> </ul>
	Plodona Dolina (協同組合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Podrinje1、Orhideja、Dom が設立した協同組合。ハーブ販売、牧草種子及びラズベリー苗の調達を実施している。</li> </ul>
	Skelanka (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>延長時の終了時評価時点においても活発に活動を行っている。</li> <li>養蜂、パッケージ、販促・品質改善活動(EU 統合をかんがみた品質の向上、コンクール出場等を含む) 等を全 19MZ を対象に展開している。</li> </ul>
	Zadrugar (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業機械の共同利用と牧草地再生・生産を実施している。</li> </ul>
	Srednje Podrinje (NGO)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラズベリー栽培、果樹栽培を実施している。</li> </ul>
	Srebrenica Municipality (市役所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>スレブレニツァ保育所(公立)の分室としてスケラニ小学校の一部を利用し、プレイルームを運営している。</li> <li>ヒツジの配布/飼育改善、ラズベリー栽培、野菜栽培・種子栽培、ブルーベリー栽培や小規模農村給水の計画・実施に携わってきている。</li> </ul>

出典：プロジェクト年報報告書 2009-2012 年

アウトプット 2：住民共存社会の再構築に向けた農業・農村開発のための活動に関する情報が普及される。

アウトプット 2 はおおむね達成された。

表 3-2 にアウトプット 2 の達成の状況を記す。アウトプット 2 は、終了時評価時点に比較し、延長期間中に進展してきたことが分かった。今後もスレブレニツァ市役所側の努力に基づき、2001 年に設立された開発ユニットの更なる機能の充実化等による情報普及の発展が行われていくことが望まれる。

表 3-2 アウトプット 2 の達成状況

指 標	達成状況
<p>2-1 スレブレニツァ市役所 によって農業・農村開発 活動に関する情報が収 集され、記録される。</p>	<p>下記のとおり、指標 2-1 はおおむね達成された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スレブレニツァ市役所 C/P は、日本人専門家とともに、活動や裨益者により事業の進捗状況、将来の活動計画、本邦研修の内容などについて定期的な協議を実施するとともに、プロジェクトサイトの巡回などを行っている。</li> <li>・ 2011 年からのプロジェクト延長期間においては、C/P のプロジェクト活動での計画立案、裨益者選定やその他の実施に係る関与はさらに高まり、プロジェクト実施に係るオーナーシップもより確保されてきた。</li> <li>・ スレブレニツァ市役所内に開発ユニット（Unit for Integrated Development Administration）が終了時評価時の提言に基づき設立された。上記ユニットの主な責務は下記のとおりである。現在 2 名の職員が配置されているが、活動展開は今後の課題でもあり、活動推進の更なる強化が望まれる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドナー支援の計画立案・調整</li> <li>・ 同市役所へのドナーによる投入資源の有効な活用、説明責任の確保</li> <li>・ ドナー支援の活動の情報収集と共有</li> </ul> </li> </ul>
<p>2-2 スレブレニツァ市役所 による情報普及活動が 少なくとも 1 年に 1 回以 上実施される。</p>	<p>下記のとおり指標 2-2 はおおむね達成された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同市市役所のウェブサイトが開設されており、頻繁に本プロジェクトに係る情報が広報されてきている。</li> <li>・ 同市では、地元ラジオ等のメディアを通じ、プロジェクトの会合への招集、活動の進捗に関して住民と情報の共有等を頻繁に行っている。</li> <li>・ プロジェクトでは 2008 年にウェブサイトを立ち上げ、およそ四半期ごとに活動の進捗等を更新してきている。</li> <li>・ 同市が運営するスケラニのプレイルームでは職員が 2012 年から定期的にフェイスブックを利用して、プレイルームの活動について広く住民を対象に広報となる情報を提供している。</li> </ul>

出典：プロジェクト年間報告書 2009-2012 年

### 3-5 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：対象地域の住民が協同して農業・農村開発活動を行う能力の強化を通じて、これら住民間の信頼が醸成される。

プロジェクト目標の達成状況については、下記の表3-3にプロジェクトで実施されてきた20種の異なる支援活動・事業を示した。専門家派遣から始まった2006年から合計するとスレブレニツァ市での裨益対象世帯数は延べ7,000世帯を超えており、スレブレニツァ市全世帯が千数百世帯であることを考えると、平均で1世帯当たり約5件の支援活動・事業が実施されたこととなる。

また民族間の信頼醸成の視点では、これら農業・農村開発活動が両民族混合のグループ（NGO等）を優先して実施されたため、活動の計画から実施までの一連のプロセスを通じて、民族間の信頼醸成につながっている。このような両民族で構成される支援活動・事業の実施主体が良好な民族間の関係を継続していること、それに伴いコミュニティレベルでも両民族の良好な協力関係がより強固に構築されてきていること（民族の区別のない就学前教育の定着や小規模農村給水事業等）が確認された。

この継続的な支援の結果、裨益者グループには農業生産の技術は順調に根づいてきており、また民族間の良好な協力・信頼関係にかんがみて、プロジェクト目標は成功裏に達成されてきている、と判断できる。

表3-3 プロジェクト目標の達成状況

指 標	達成状況・内容
プロジェクト終了時まで、住民による協同活動事例の種類がプロジェクト開始時と比較して増加する。	<p>プロジェクトでは両民族混合のグループ（NGO等）に対して、下記の20種の農業・農村開発活動を支援した。</p> <p>その結果、裨益者総数は、プロジェクト開始前が850世帯、プロジェクト延長前が4,725世帯、調査時に7,553世帯と増加しており、指標は達成されたといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①イチゴ生産</li> <li>②温室生産支援</li> <li>③温室のビニール資材支援</li> <li>④果樹</li> <li>⑤ラズベリー</li> <li>⑥ブルーベリー</li> <li>⑦牧草地再生</li> <li>⑧農業灌漑</li> <li>⑨ローズヒップ</li> <li>⑩養蜂</li> <li>⑪チェスナッツ</li> <li>⑫日本アカシア</li> <li>⑬ヘーゼルナッツ</li> <li>⑭プレ・スクール支援（プレイルーム）</li> <li>⑮ヒツジ飼育改善</li> </ul>

	⑯ハーブ ⑰インゲンマメ ⑱ジャガイモ ⑲農業機材提供 ⑳果樹せん定
--	--

出典：プロジェクト資料・専門家への聞き取り

### 3-6 実施プロセス

プロジェクトでは、裨益者である組合・組織や MZ 代表と活動内容に関して頻りに会合を開いてきた。本評価調査でも関係者（専門家、C/P、裨益者）間の意思疎通、意思決定のプロセス、活動のモニタリングの点においてはおおむね高い水準であったことが確認された。特に、専門家と C/P 間の関係性は良好であり、活動進行に係る意見交換や議論は活発・忌たんなく行われプロジェクト実施上の効果を生み出してきた様子が見えられた。下記の表 3-4 に主な会合とその内容を示す。

表 3-4 ボスニア・ヘルツェゴビナ側との主な会合

会 合	開催頻度/方法	定例出席者
C/P ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>月例で実施し、それまでの活動内容の報告、計画を確認し、問題等を共有・議論してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家</li> <li>スレブレニツァ市役所 C/P4 名</li> <li>同市開発ユニット職員 2 名</li> </ul>
合同調整委員会 (Joint Coordinating Committee : JCC)	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画では年に 1 回開催の予定。下記のとおり、プロジェクト期間中に 6 回実施されてきた。</li> <li>・ 2009 年 7 月 2 日</li> <li>・ 2010 年 6 月 23 日</li> <li>・ 2011 年 4 月 13 日</li> <li>・ 2012 年 3 月 15 日</li> <li>・ 2013 年 2 月 15 日</li> <li>・ 2013 年 11 月 11 日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同市長（議長）</li> <li>専門家</li> <li>JICA バルカン事務所所長</li> <li>同市役所 C/P4 名</li> </ul>
組合（裨益者グループ）/MZ 代表メンバーとの会合	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクトでの農業・農村開発に係る組合・集団活動に関する会合は必要に応じ組合・組織や MZ 代表メンバーと頻りに開催されてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門家</li> <li>同市市役所 C/P</li> <li>組合・組織や MZ の代表メンバー</li> </ul>

出典：プロジェクト専門家への聞き取り

## 第4章 評価結果

### 4-1 評価5項目による評価

#### 4-1-1 妥当性

プロジェクトの実施の妥当性は下記の理由により、プロジェクト開始時期から継続して非常に高い。

##### (1) ボスニア・ヘルツェゴビナ政策とスレブレニツァ市の開発戦略との整合性

プロジェクトの目標はボスニア・ヘルツェゴビナの開発戦略とスレブレニツァ市の開発目標に合致している。ボスニア・ヘルツェゴビナの中期開発戦略（2010-2014）によれば、農業生産力の向上にけん引された経済水準の向上は農業・農村開発分野の目標の一つである。またボスニア・ヘルツェゴビナは現在 EU 加盟を前提に体制整備を進めており、EU から提示された加盟のための「ロードマップ」には、多民族共存社会の再構築、少数民族の権利保障等が含まれている。そしてスレブレニツァ市の開発戦略（2013）では農業生産を通じた収入向上と多民族社会・宗教における寛容性の確保、を基本指針としてうたっている。

##### (2) わが国の援助方針との整合性

日本は、2004年の「西バルカン平和定着・経済発展閣僚会合」において「平和の定着」「経済発展」「域内協力」の考えに基づき、わが国が引き続き積極的な貢献を行うとし、ボスニア・ヘルツェゴビナの和平履行に主体的に関与してきた。対ボスニア・ヘルツェゴビナ国別援助方針（2012年4月）でも「平和の定着」は重点分野と位置づけられている。

#### 4-1-2 有効性

アウトプット1とアウトプット2が達成された結果、プロジェクト目標はおおむね達成された。アウトプットとプロジェクト目標の関係性は問題なかったと判断される。

プロジェクト開始当初は、両民族が混合して参加している組織を中心に支援を行ったことで、両民族の関係の親密性や意思疎通の機会を高め、また両民族への平等な支援を行うことにより、住民の活動参加に高い動機づけをもたらす結果となった。

プロジェクトが実施した裨益者を対象とする民族間の経済水準と信頼醸成の関係を測る目的の調査（2010年）の結果では、返答者の51%が異なる民族間の交流機会は増加した、38.4%はプロジェクトが実施されたことによりその関係はより改善された、と返答している。

#### 4-1-3 効率性

下記の理由によりプロジェクト実施の効率性は高い。

プロジェクトにおける投入は、おおむねアウトプットの達成に有効に活用され、計画された活動は、大きな遅延はなく実施されてきた。同一の専門家が2006年3月から継続的に長期間にわたり対象地域での協力を携わり、また他の専門家もあわせて当地に居住してきた。このため、現地のニーズの確認や裨益候補者の選定はスムーズに行え、プロジェクト計画立案、実施、技術移転や対象地域での活動のモニタリングは的確かつ効率的に行うことができた。また本プ

プロジェクトの開始時期である 2008 年以前から C/P との良好な意思疎通や信頼関係が確立されていたことも、さらにプロジェクト実施上での効率性を高めた。

#### 4-1-4 インパクト

プロジェクトの裨益者（農民）が今後、プロジェクトで達成した効果を持続すれば、上位目標は達成可能である、と予測される。経済面に関しては、2013 年にプロジェクトが実施したサンプル世帯を対象とするインパクト調査の結果によれば、下図 4-1 に示すとおり、2011 年のプロジェクト期間延長前に対象地域であった 12MZ では、2013 年には年間収入が高い（6,000KM 以上）世帯の数は著しく増加し、またかなり低い（500KM 以下）世帯の数は減少している（2008 年、2010 年のプロジェクトによる調査との比較）。

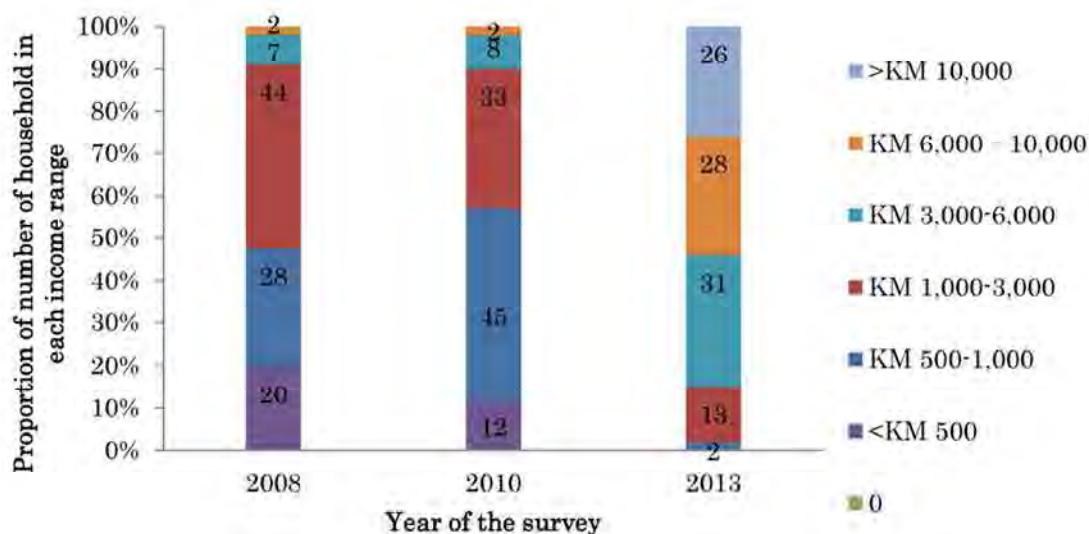


図 4-1 裨益者（サンプル）の年間世帯収入の推移（12MZ）

また、図 4-2 に見られるとおり、2011 年のプロジェクト延長後に新たな対象地域となった 7MZ でも 2010 年の支援開始前と比較し、2013 年では年収増加で、同様の傾向があることが分かった。

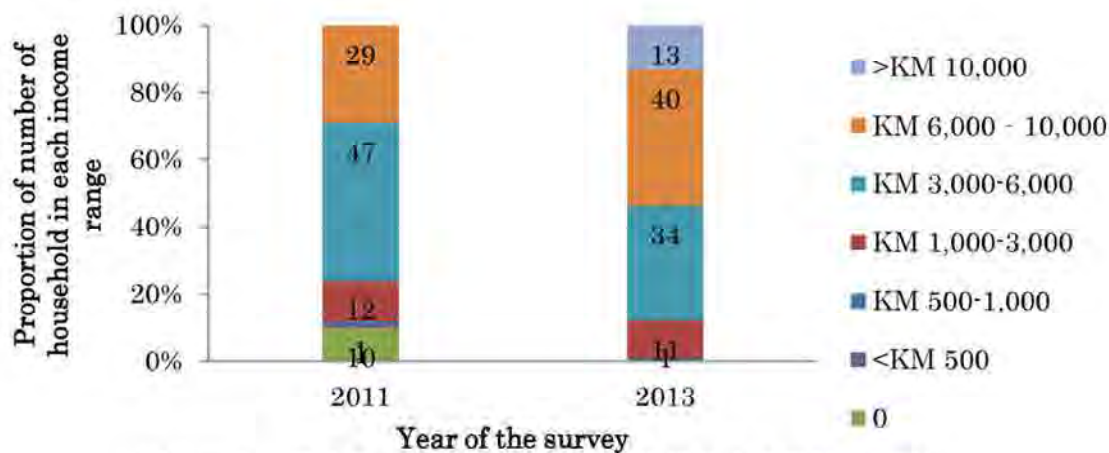


図 4-2 裨益者（サンプル）の年間世帯収入の推移（7MZ）

これらの調査を行った 2008、2010、2011、2013 年の各年は対象地域では天候不順等による農産物の豊作、不作などの変動は特に生じず、この世帯年収の数値は裨益者の平均的な収入水準を示すもの、と考えられる。

対象地域で日常的にみられる下記のような生産活動での事例から住民間の信頼関係はさらに安定したものとなりつつある。

- ・ 農業灌漑の水源の共有
- ・ 牛乳、ラズベリーの集荷場所の共有
- ・ 農業機械の共有（貸し借り）

また、当初の予想を超えたプロジェクト実施のインパクトとして、本プロジェクトの支援による牧草地再生により、他の国際機関が支援するウシの受給につながった、等の波及効果も生じている。

民族共存の観点でも、民族混合の農業・農村開発活動等を通じて、対象地域で民族共存の事例（民族の区別のない就学前教育の定着や小規模農村給水事業等）が散見されている。

近年、クロアチアの EU 加盟（2013 年 7 月）やセルビアによる EU 加盟交渉の本格化に伴い、ボスニア・ヘルツェゴビナ国内において各民族の独立の機運が高まっており、民族間の対立をおおるような政治的な宣伝活動（いわゆるヘイトスピーチ）が増加している。プロジェクトによる経済的安定や民族共存は、この不安定要因に対する強靱性強化の一つであり、ポジティブなインパクトといえる。

#### 4-1-5 持続性

以下の（1）組織的側面、（2）財政的側面、（3）技術的側面から、持続性は中程度と判断される。

##### （1）組織的側面

スレブレニツァ市役所の開発ユニットは本プロジェクトの終了時評価における提言を契機に設立され、その責務の中心はドナー支援の計画立案や調整である。さらに市に流入するドナーあるいは外部からの支援を市（役所）が有効に活用するための調整窓口の役割も期待されている。同市は同じく本プロジェクト支援を契機に設立されたプレイルームの教員の給与を負担してきており、今回評価調査時の同市長との面談では、プロジェクト終了後もプレイルームは継続する予定である、との意思表示があった。

##### （2）財政的側面

同市では次年度（1 月開始の会計年度 2014）の農業・農村開発の活動予算は増加予定が見込まれており、この政策が今後も継続されるならば、農業生産・農村開発活動における持続性は高い、と予測できる。

##### （3）技術的側面

本プロジェクトで支援した農業生産の技術と知識は裨益対象である農民たちに確固として根づいてきており、経済水準の向上や十数年間の地域情勢の安定化とともに、農業生産・農村開発への意欲の点でも自立性を大きく発揮し始めている。これらの裨益者はその

技術と知識を今後も農業(再)生産に生かし、さらに自立性を高めていくことができる、と期待される。

#### 4-2 効果発現に貢献した要因（平和構築案件評価の視座）

本プロジェクトは、農業・農村開発における能力強化を通じて、住民間の信頼醸成を実現することを目標としたものであり、明示的に平和構築を意図した案件である。平和構築活動については、確実に平和を実現し得るような普遍的処方箋が存在しないという属性上、評価に際しても依拠すべき普遍的スタンダードは確立されていない状況である。なかでも本プロジェクトは、民族浄化で追放されたムスリムが帰還し得る環境を創出することを通じて民族共存を可能にすることをめざすものであり、住民のマインド・セットに直接かかわる問題であることから、定量的に成果を評価することが妥当とはいえず、評価は状況証拠を重ねた定性的なものとならざるを得ない。

こうした視点から、本プロジェクトによって創出された諸状況のうち、プロジェクトの効果発現に貢献した要因と推察される現象を個別的に抽出すると以下のとおりである。

##### (1) 裨益者の選定

NGO 主導のサブプロジェクトについては、基本的に両民族が均等に選定されることを前提として、一定の基準（扶養家族数や戦争被害者であるかどうか等）をベースに、NGO、MZ 長、JICA が公平・公正に実施している。また、MZ 主導のサブプロジェクトについては、両民族で構成される Conducting Board が裨益者を選定し、不公平感を最小限にとどめる努力が定着している。

##### (2) 各プロジェクトにおける民族間協力

養蜂サブプロジェクトやベリー栽培サブプロジェクト等では、専門知識を有する者が、民族を問わず新規参入者に指導・アドバイスを行うシステムが確立し、良好な関係が構築されている（市役所もモニタリング等に参加）。例えば、Podravanje MZ のセルビア人養蜂業者は「JICA が来るまでムスリムとの交流はなかったが、本プロジェクト開始後、ムスリムの新規養蜂業者にも技術指導を行っており、関係は良好である」と語るなど、本プロジェクトが民族間関係改善に果たす役割の重要性が認識されている。

##### (3) 小規模農村給水事業

同一の水源から両民族が水の供給を受けることができるようになり潜在的な対立の要因が排除された（Osat MZ）。またムスリム居住地では灌漑施設の設置が帰還の促進要因となっている（Podravanje MZ）。

##### (4) 就学前教育施設設置

ボスニア・ヘルツェゴビナでは現在、「就学前教育」は義務教育であるにもかかわらず、財政難やリソース不足等から、わずか 6.4%の幼児しか幼稚園・保育園等にアクセスできていない（UNICEF）。このため、本プロジェクトで設置されたプレイルームは当該地域における希少な施設であり、住民参加を促す有効なインセンティブとして機能すると同時に、両民



族の両親及び幼児たち自身が時間を共有する場として信頼醸成の機会を提供している。また、わずか 18 年前に大量虐殺が行われた町において、父兄が民族の壁を越え、子供たちと一緒に遊ばせる気持ちになっていることのもつ意味は決して小さくはない。

#### (5) 対象地域拡大による経済格差の是正

本プロジェクトは当初、19MZ 中 12MZ を支援対象とし、プロジェクト期間内に所定の成果を上げるに至ったが、対象外だった 7MZ の経済発展を支援しないまま撤退することは、格差による不満が政治的に利用される懸念を残すとともに、既に達成された成果に対しても負のインパクトを与える蓋然性があるとの判断により、プロジェクト期間を延長し、支援対象を全土に拡大した。その結果、経済レベルが市全体で標準化され、不満が暴力に転嫁させるような政治環境に抗し得る *resilience*（強靱性）を向上させた。

#### (6) ボスニア・ヘルツェゴビナ国内での TV 放映

本プロジェクト終了に際し、同地域における和解促進の努力を TV 番組として撮影し、同国の公共放送局（BHRT）で放映することとなった。本プロジェクトは対象地域における和解を促進し、共存を可能とするうえで大きな成果を上げたが、国内外の環境の変化により、ボスニア他地域では民族主義が高まるなど、「平和の定着」に逆行する動きがみられたことから、「一地域の安定化が国家全体の平和構築に資するのか」という問題意識が生じたためである。同番組は「第 2 次世界大戦後、欧州最大の悲劇」と呼ばれた虐殺の現場で、加害者と被害者の共存が実現し得たことを紹介するドキュメンタリーであり、ボスニア他地域の住民に共存の可能性を示し国内で大きな反響を呼んだ。

### 4-3 結 論

上述のとおり、本プロジェクト目標は延長期間終了時までにおおむね達成される見込みであり、本プロジェクトは予定どおり 2013 年 11 月末をもって終了する。

成果 1 については、延長期間においてスレブレニツァ市全域がカバーされた結果、20 種の活動が実施され、裨益人口は総計 7,553 世帯（セルビア人 3,669 世帯、ムスリム 3,884 世帯）に至った。2013 年 10～11 月に実施した裨益者アンケートの暫定結果によると、裨益住民の収入は対 2011 年比で 30～40% 増加しており、これら経済活動は定着している。特にラズベリー生産、養蜂、牧羊、牛乳生産は安定した収入源として確立しており、地域内における協力も活発に行われている。

成果 2 については、市役所による関連ウェブサイトの立ち上げ、プレイルーム教員たちによるフェイスブックを通じた情報交換などにより、民族の垣根を越えた情報の伝達が行われている。このような情報公開・交換による透明性の確保は、多民族社会安定化に必須の課題であり、本プロジェクトの枠内で行われているこうした努力が、民族共存を後押ししているのは間違いない。

また本プロジェクトの提言により発足した市役所の開発ユニットは、広く住民のニーズに関する声を集めるとともに、開発関連情報の普及に従事する責務を負っており、両民族の「知る権利」を満たすうえで中核的役割を果たしている。

このように本プロジェクトはこれまで予想を上回る成果を上げてきたといえる。これまで支援の対象とされてこなかった地域や民族にも焦点を当て、また民族の区別のない農業・農村開発活動、就学前教育、小規模農村給水事業等を通じて、民族が共存した経済・社会活動の基盤を形成

できた意義は大きい。これらの基盤整備は、周辺国の動向（独立や EU 加盟等）に伴うボスニア・ヘルツェゴビナ国内での民族主義的プロパガンダの再興により、紛争前のような排他的環境がつけられつつあることに対する紛争予防の「処方箋」にもなり得る。プロジェクト終了後のボスニア・ヘルツェゴビナによる自律的な活動継続により、これらの経済・社会活動の基盤がより強固となることが望まれる。

## 第5章 教訓と提言

### 5-1 教訓

本終了時評価で確認された特筆すべき教訓は以下のとおりである。

#### (1) 迅速な事業の開始

異なる民族の住民間の信頼醸成を趣旨とする案件の場合、技術協力プロジェクト実施方法は柔軟性を確保し、できるだけ時間をかけずに活動を開始することが望ましい。

#### (2) 「異なる種類」のインパクトの組み合わせ

短期間で目に見える成果を出すことができるサブプロジェクトと、時間はかかるが平和を実感できるような成果を出せるサブプロジェクトを組み合わせることは有効である。

#### (3) 適時・適切な情報普及

本プロジェクトでは、両民族平等を基礎とし、一定のクライテリアに準拠した選定が実施されているとはいえ、非裨益者（時には裨益者さえ）からの不満の声も聞かれる。こうした不満は容易に政治的に利用され得るため、各サブプロジェクトにおいては選定過程において、市役所担当者の参加をはじめ、第三者のモニタリングを義務づけるとともに、決定事項については市役所広報等で、「次回プロジェクトの対象は以下のとおり。選定は以下の基準により実施された」等、広くその透明性を周知する努力を行うべきであろう。また、「耕運機の所在が不明」「特定の者だけが供与機材を占有している」等の不満が出ないように、プロジェクトの実施プロセスにおいても、供与された機材がどのように活用されているか等、広報でフォローする等の工夫が必要である。

#### (4) 経済的自立と意識の変化

経済開発と紛争の関係はまだ学問的には立証されていないが、本プロジェクトを通じ、裨益者の経済状況の改善と和解（他民族に対する寛容レベル）の進展が実証的に示された。プロジェクトが実施した裨益者調査では、「良好な共存関係を維持するうえで必要なもの」として、回答者 255 人全員が経済活動（「農業への投資」「牧畜」「工場開設」など）を挙げている。

### 5-2 提言

2006年3月の長期専門家派遣に始まる7年半以上に及ぶJICAによる協力の結果、スレブレニツァ市は経済的側面からみれば、自立性の高い農業共同体となった。プロジェクト終了後にはスレブレニツァ市役所の管理の下、現地NGO等の住民グループがベリー類の栽培や牧草地の整備、養蜂業等の活動を生計の手段として自発的に維持していくことが期待される。

他方、両民族の共存状況の維持についても、継続的な努力が望まれる。2年ごとの選挙（国政、エンティティ及び県レベルの選挙、並びに市町村レベルの選挙が2年の間隔を置いてそれぞれ4年周期で行われる）のたびに国内全土で展開される民族主義的プロパガンダや、コソボ独立後

のスルブスカ共和国（Republika Srpska : RS）指導者による分離主義的戦略は大きな障害となる可能性がある。この影響を防ぐためには、民族を区別しない農業・農村開発活動や学校制度等、多様性を受け入れる経済的・社会的な制度を強固にする必要がある。民族が共存した社会形成には多くの時間が必要であり、スレブレニツァ市役所を中心とした自律的で長期的な活動継続が望まれる。このように両民族に対し、常時偏りのない情報を提供し続け、経済・社会活動を平等に支えていくうえで、スレブレニツァ市役所の開発ユニットの役割が極めて大きいため、同ユニットのタームズ・オブ・レファレンス（TOR）をより明確化し、必要予算とスタッフ確保を継続的に実施するよう強く要望したい。

## 付 属 資 料

Minutes of Meeting (M/M) <合同評価報告書を含む>

MINUTES OF MEETING  
BETWEEN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY  
AND  
SREBRENICA MUNICIPALITY  
ON  
THE PROJECT FOR CONFIDENCE-BUILDING IN SREBRENICA ON AGRICULTURAL AND RURAL  
ENTERPRISE DEVELOPMENT

Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and Srebrenica Municipality of Bosnia and Herzegovina have jointly organized the Terminal Evaluation Team (hereinafter referred to as "the Team" to conduct the Terminal Evaluation on the Project for Confidence-Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development (hereinafter referred to as "the Project") in accordance with the Record of Discussions on the Project.

After the intensive study and analysis of the activities and achievements of the Project, the Team prepared Joint Terminal Evaluation Report (hereinafter referred to as "the Report"), and presented it to the Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") on 11 November 2013.

JCC discussed the major issues presented in the Report and agreed to report to the respective governments the matters referred to in the document attached hereto.

Srebrenica, 11 November 2013

橋本 敬 市

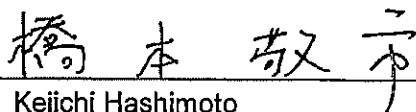
Keiichi Hashimoto  
Leader  
Terminal Evaluation Mission  
Japan International Cooperation Agency

  
Samir Durakovic  
Mayor  
Srebrenica Municipality  
Bosnia and Herzegovina

JOINT TERMINAL EVALUATION REPORT  
ON  
THE PROJECT FOR CONFIDENCE BUILDING IN SREBRENICA  
ON AGRICULTURAL AND RURAL ENTERPRISE DEVELOPMENT

Srebrenica, Bosnia and Herzegovina  
11 November 2013

Japan – Bosnia and Herzegovina  
Joint Evaluation Team




Keiichi Hashimoto

Leader

Japanese Evaluation Team

Japan International Cooperation Agency



Dane Katanic

Leader

Bosnia and Herzegovinian Evaluation Team

Head of Department for Economy and  
Development, Srebrenica Municipality

Bosnia and Herzegovina

- 1. Introduction**
  - 1.1. Objectives of the Terminal Evaluation**
  - 1.2. Members of the Joint Evaluation Team**
  - 1.3. Schedule of the Terminal Evaluation**
- 2. Outline of the Project**
  - 2.1. Background of the Project**
  - 2.2. Summary of the Project**
- 3. Methodology of the Evaluation**
  - 3.1. Procedure (Joint Evaluation)**
  - 3.2. Item of Analysis**
  - 3.3. Limitation**
- 4. Project Performance and Implementation Process**
  - 4.1. Inputs**
    - 4.1.1. Japanese side
      - 4.1.1.1. Dispatch of experts
      - 4.1.1.2. Acceptance of C/Ps for Training in Japan
      - 4.1.1.3. Provision of Equipment and Materials
      - 4.1.1.4. Local Cost
    - 4.1.2. BiH side
      - 4.1.2.1. Assignment of Counterpart Personnel
      - 4.1.2.2. Facilities
      - 4.1.2.3. Local Cost
  - 4.2. Measures/activities taken following Recommendations at Terminal Evaluation in April 2011**
  - 4.3. Major Activities implemented during the Extended Period since 2011**
  - 4.4. Achievement of the Outputs**
    - 4.4.1. Output 1: Agricultural and rural development activities are implemented continuously by the targeted people.
    - 4.4.2. Output 2: Information about agricultural and rural development for re-building co-existent society is disseminated.
  - 4.5. Achievement of the Project Purpose**
  - 4.6. Implementation Process**
- 5. Evaluation Results**
  - 5.1. Relevance**
  - 5.2. Effectiveness**
  - 5.3. Efficiency**



**5.4. Impact**

**5.5. Sustainability**

**6. Evaluation based on the viewpoint of Conflict-Prevention and Peace-Building (CPPB) Activities**

**7. Lessons Learnt**

**8. Conclusion and Recommendations**

**ANNEX**

**1. Schedule of the Terminal Evaluation Study**

**2. Project Design Matrix**

**3. Dispatch of JICA Experts**

**4. Acceptance of C/Ps for Training in Japan**

**5. Provision of Equipment and Materials**

**6. Local Cost by the Japanese side**

**7. Assignment of Counterpart Personnel**

**8. Local Cost by the Bosnia and Herzegovinian side**

**9. Quantity of Assistance to Each MZ from 2006 to 2013**

## 1. Introduction

### 1.1. Objectives of the Terminal Evaluation

Objectives of the Terminal Evaluation were as follows:

- (1) To review the performance and achievements of the Project comparing to its plan especially in the extended period (from September 2011 to November 2013).
- (2) To evaluate the performance and achievements of the Project referring the last evaluation held in April 2011.
- (3) To identify and analyze factors contributing the confidence-building among residents in the project target area to the factors already identified in the last Evaluation in April 2011.
- (4) To formulate a Joint Evaluation Report with the BiH authorities concerned based on the result of the items above, and participate in the Joint Coordinating Committee in order to present and discuss the result of evaluation and to exchange the Minutes of Meeting.

### 1.2. Members of the Joint Evaluation Team

Table 1-1: JICA Evaluation Team Members

Name	Designation & Organization
Dr. Keiichi Hashimoto (Team Leader)	Senior Advisor (Peace Building), JICA
Mr. Jun Hirashina	Project Formulation Advisor, JICA Balkan Office
Ms. Rie Kawahara	Consultant, R-QUEST Corporation

Table 1-2: BiH Evaluation Team Members

Name	Designation & Organization
Mr. Dane Katanic (Team Leader)	Head of Department for Economy and Development, Srebrenica Municipality
Mr. Bego Bektic	Head of Department for Social Affairs and public services, Srebrenica Municipality

### 1.3. Schedule of the Terminal Evaluation

The schedule of the Terminal Evaluation is attached as ANNEX-1

## 2. Outline of the Project

### 2.1. Background of the Project

The Srebrenica Municipality was one of the most seriously devastated areas during the conflict in BiH in the early 90's. The significance of tragedies was widely shared in the international community. Japan, which has been playing a positive role in the state-building process of the newly established country as a member of the Steering Board of the Peace Implementation Council (PIC), has been laying emphasis on the confidence-building among the ethnic groups in the war-torn city of

Srebrenica.

Japan International Cooperation Agency (JICA) started its support for the Municipality in October 2004, dispatching an agricultural and rural development expert to Skelani, eastern part of Srebrenica, to carry out field surveys and pilot activities. A wide range of development potential was identified through these activities to formulate a project with multiple objectives: (1) to develop a basis for enabling environment for confidence-building; and (2) to promote local development through agricultural and rural development activities. It was recognized that development activities in the post-conflict multi-ethnic society should adopt a community-based approach that would give a better chance for an outside assistance to play a catalytic role in a fair manner. With this recognition, both Governments agreed to implement the project through technical cooperation scheme of JICA for the duration of 3(three) years from August 2008 to August 2011.

In accordance with the recommendation of the joint evaluation conducted by Bosnia and Herzegovina and Japan in April 2011, both sides agreed to extend the Project period until November 2013 and to add 7 more MZs to cover all 19 MZs in Srebrenica Municipality.

## **2.2. Summary of the Project**

### **Project Title**

The Project for Confidence-Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development (SACRED)

### **Responsible Organization**

Srebrenica Municipality

### **Project Duration**

August 2008 – November 2013

### **Target Area**

12 Mjesna Zajednica (MZ)<sup>1</sup> in Srebrenica Municipality (August 2008 - August 2011)

19 MZs in Srebrenica Municipality (September 2011 – November 2013)

### **Target Group**

Residents in 19 MZ of Srebrenica Municipality especially returnees, families with war victims and fatherless (or motherless) families

### **Overall Goal**

(1) The economic situation of the targeted population is improved.

---

<sup>1</sup> "Mjesna Zajednica" means "Local Community" in local language. It is hereafter referred to as "MZ".

- (2) Reconciliation of people in the target area is promoted.

### **Project Purpose**

Confidence among the targeted population is built through strengthening the capacity to manage agricultural and rural development joint activities.

### **Outputs**

- (1) Agricultural and rural development activities are implemented continuously by the targeted people.
- (2) Information about agricultural and rural development for re-building co-existent society is disseminated.

## **3. Methodology of the Evaluation**

### **3.1. Procedure (Joint Evaluation)**

The Project was evaluated by the BiH and Japanese Evaluation Teams (hereinafter referred to as “the Team”). The Team was composed of three (3) members from the Japanese side, and two (2) members from the BiH side (Srebrenica Municipality). The Evaluation included analysis of documents, field survey, interviews and discussions with stakeholders such as counterparts (C/Ps), JICA Experts, associations/beneficiaries group, individual beneficiaries (households) and assessment of achievement referring with PDM (refer to Annex 2).

### **3.2. Item of Analysis**

- (1) Level of accomplishment of Project (towards Outputs and Project Purpose)
- (2) Implementation Process, and
- (3) Five Evaluation Criteria described below:

**Table3-1: Definition of the Five Evaluation Criteria**

<b>Five Evaluation Criteria</b>	<b>Definitions as per JICA Evaluation Guideline</b>
1. Relevance	Relevance refers to the validity of the Project Purpose and the Overall Goal in connection with the development policy of the Government of BiH as well as the needs of beneficiaries.
2. Effectiveness	Effectiveness refers to the extent to which the expected benefits of the Project have been achieved as planned. It also examines whether these benefits have been brought about as a result of the Project.
3. Efficiency	Efficiency refers to the productivity of the implementation process, examining if the input of the Project have been efficiently converted into the outputs.
4. Impact	Impact refers to direct and indirect, positive and negative impacts caused by the implementation of the Project, including the extent to which the Overall Goal has been attained.
5. Sustainability	Sustainability refers to the extent to which Srebrenica Municipality can further develop the Project, and the benefits generated by the Project can be sustained

### 3.3. Limitation

The Team, on the other hand, recognized that the conventional evaluation methodology that is based on five criteria mentioned above may not suffice in the case of peace-building/confidence-building projects. Therefore, the Team also collected specific cases that showed “interactions” among local population through a series of interviews and extensive review of process documents prepared and regularly submitted by the Project.

## 4. Project Performance and Implementation Process

### 4.1. Inputs

#### 4.1.1. Japanese side

##### 4.1.1.1. Dispatch of Experts (See Annex 3)

Three (3) Long-term JICA Experts were assigned for the following fields:

- Chief Advisor/Agriculture Extension
- Rural Development/Project Coordinator
- Multi-ethnic Participatory Rural Activities/Project Coordination

In addition, two (2) short term JICA Experts were dispatched on the subjects below:

- Merchandise Development/ Addition of Commercial Value on Products
- Adviser for Education Techniques and Management System on Pre-schools Education

##### 4.1.1.2. Acceptance of C/Ps for Training in Japan (See Annex 4)

In total, fifteen (15) personnel (four (4) in 2008, seven (7) in 2009 and four (4) in 2011) from the BiH side have been trained in Japan in the fields of “Community Development” and “Local Industry Development”.

##### 4.1.1.3. Provision of Equipment and Materials (See Annex 5)

Equipment and materials supplied are listed in Annex 5.

##### 4.1.1.4. Local Cost (See Annex 6)

Local costs allocated by JICA for carrying out the Project activities during the Japanese fiscal years (JFY) from 2008 to 2013 is 1,674,943 Euro currency, in total.

### 4.1.2. BiH side

#### 4.1.2.1. Assignment of Counterpart Personnel (See Annex 7)

Five (5) counterpart personnel have been assigned during the Project period. Detailed assignment terms are indicated in Annex 7.

#### **4.1.2.2. Facilities**

Srebrenica Municipality has provided an office space and necessary facilities for JICA Experts and the BiH counterpart personnel for Project activities.

#### **4.1.2.3. Local Cost expended by the BiH side (See Annex 8)**

Local activities cost for utilities, partial salary for caretaker at playroom and partial cost for water supply development, which amounted about 114,205 KM (in BiH currency) from 2008 to 2013, have been provided by the BiH side. Details are shown in Annex 8.

### **4.2. Measures/activities taken following Recommendations at Terminal Evaluation in April 2011**

Terminal evaluation carried out in April 2011 made three (3) recommendations to the Project.

Measures and activities taken in response to the recommendations are as follows:

#### **(1) Coverage of three (3) agricultural seasons from April 2011**

The Project has covered three agricultural seasons following the recommendation by extending the Project period until November 2013. During three agricultural seasons, it was observed that technical knowledge and skills on agriculture production have become rooted firm in the areas, where the Project started its support earlier. Newly targeted areas also experienced three agricultural seasons. It is considered fairly enough to introduce and implement development activities.

#### **(2) Dissemination of technical know-how and lessons learned in the new target areas**

During the extended period of the Project, agricultural and rural development activities, which were pre-existing in the 12 MZs, were similarly introduced into the newly covered MZs. Some beneficiary associations/NGOs started before 2011, such as for beekeeping, also increased its members in the newly covered MZs. Technical transfer on agricultural production by experienced farmers with good skills is also organized by the Project at the newly covered areas.

#### **(3) Training in Japan for municipal C/Ps and other personnel**

As shown in Annex 4, two (2) municipal C/Ps and two (2) representatives from target communities/beneficiaries were sent to and trained in Japan in 2011.

### **4.3 Major Activities implemented during the Extended Period since 2011**

During the extended period since 2011, the following activities were introduced or became more intense. As a result, as shown in Annex 9 Quantity of Assistance to Each MZ from 2006 to 2013, there have been 20 different types of activities implemented, in total.

- Improvement of sheep farming
- Agricultural irrigation (water supply)
- Vegetable seedling production
- Blueberry production

- Grassland recovery

Improvement of sheep farming, agricultural irrigation and blueberry production were introduced in the extended periods. After it was found effective to carry out the new activities, they were expanded to the previously supported 12 MZs too. In case of irrigation, building drinking water facilities were supported even before 2011, but agriculture irrigation was newly started in the extended period. Vegetable seedling production has also been introduced to 3 farmer households with good skills and knowledge on seedling production. Grassland restoration was started before 2011, and it was more focused on the new areas since the MZs were hilly and suitable for pasture.

#### 4.4 Achievement of the Outputs

In general, it is evaluated that the levels of achieving the two (2) Outputs were satisfactory. In the following, status towards achieving two (2) Outputs based on the indicators of PDM is described.

##### 4.4.1. Output 1: Agricultural and rural development activities are implemented continuously by the targeted people

Summary of the findings is presented in the Table 4-1 below. Most of the Project activities have been actively carried out while mushroom was suspended due to external factors.

As mentioned prior, the program for improvement of sheep farming, blueberry production and vegetable seedling production has been also introduced after 2011.

**Table 4-1: Level of Achievement of Output 1**

Indicator	Level of Achievement										
The conditions of implementation of the projects by related organizations such as MZs and NGOs.	<p>The major activities of related organizations carried out were as follows.</p> <table border="1" data-bbox="579 1352 1380 1937"> <thead> <tr> <th data-bbox="579 1352 810 1391">Organizations</th> <th data-bbox="810 1352 1380 1391">Major Activities</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="579 1391 810 1518">Dom</td> <td data-bbox="810 1391 1380 1518"> <ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include mushroom production by using a tunnel; however, their production has been stopped due to a land use problem.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1518 810 1615">Drina Skelani</td> <td data-bbox="810 1518 1380 1615"> <ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include planting of fruit trees, fruit liquor production and vegetable production in the open field.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1615 810 1742">Eco Gradina</td> <td data-bbox="810 1615 1380 1742"> <ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include improvement of a species of kidney beans, raspberry production and vegetable production in the open field.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1742 810 1937">Several MZs including Kostolomci MZ, Osat MZ, Podravanje MZ and Skelani MZ.</td> <td data-bbox="810 1742 1380 1937"> <ul style="list-style-type: none"> <li>Major activity is small-scale irrigation facility.</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	Organizations	Major Activities	Dom	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include mushroom production by using a tunnel; however, their production has been stopped due to a land use problem.</li> </ul>	Drina Skelani	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include planting of fruit trees, fruit liquor production and vegetable production in the open field.</li> </ul>	Eco Gradina	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include improvement of a species of kidney beans, raspberry production and vegetable production in the open field.</li> </ul>	Several MZs including Kostolomci MZ, Osat MZ, Podravanje MZ and Skelani MZ.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activity is small-scale irrigation facility.</li> </ul>
Organizations	Major Activities										
Dom	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include mushroom production by using a tunnel; however, their production has been stopped due to a land use problem.</li> </ul>										
Drina Skelani	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include planting of fruit trees, fruit liquor production and vegetable production in the open field.</li> </ul>										
Eco Gradina	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activities include improvement of a species of kidney beans, raspberry production and vegetable production in the open field.</li> </ul>										
Several MZs including Kostolomci MZ, Osat MZ, Podravanje MZ and Skelani MZ.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major activity is small-scale irrigation facility.</li> </ul>										

	New Hope	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Still very active as an agent between the Project and beneficiaries hire by the Project</li> <li>• Major activities include regeneration of grassland, raspberry and rosehip planting and small-scale irrigation facilities.</li> <li>• As an agent between the JICA Project and beneficiaries, implementation of grass field recovery program, and part of the fruits tree planting program</li> </ul>
	Orhideja	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Major activities include strawberry production and management of livestock market.</li> </ul>
	OSAT	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Major activities include apiculture for four MZs around Osat MZ.</li> <li>• Still very active at the end of the Project</li> </ul>
	Podorinje 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Major activities include greenhouse production, herb production/processing and management of a place for drying crops. Podorinje 1 is playing a major role in carrying out joint field activities by 3 associations.</li> </ul>
	Plodona Dolina (cooperative)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• It is an association established by Podrinje1, Orhideja and Dom. Major activities include sale of herb, procurement of fodder seeds and raspberry seedlings.</li> </ul>
	Skelanka	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Major activity is apiculture.</li> <li>• Still very active at the end of the Project</li> </ul>
	Zadrugar	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Major activities include fodder production and sharing use of agricultural machinery and equipment.</li> </ul>
	Srednje Podrinje	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Major activities include raspberry seedlings and planting of fruit trees.</li> </ul>
	Srebrenica Municipality	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Playrooms at Skelani and Potcari have been operated as a branch of Srebrenica kindergarten which is a public pre-school.</li> <li>• Planning and Implementation of improvement of sheep farming, raspberry production, vegetable production, fruits tree planting, blueberry production, vegetable seedling production and irrigation programs.</li> </ul>

Source: Project Annual Report 2009, 2010, 2011 and 2012

**4.4.2. Output 2: Information about agricultural and rural development for re-building co-existent society is disseminated.**

Summary of the findings is presented in the Table 4-2. Output 2 has been made progress as compared prior, while it is suggested that there is still a potential to be explored in future by Srebrenica Municipality.



**Table 4-2: Level of Achievement of Output 2**

Indicators	Level of Achievement
2-1 Information about agricultural and rural development is collected and recorded by Srebrenica Municipality	<ul style="list-style-type: none"> <li>• C/Ps of the Srebrenica Municipality, together with JICA Experts, surveyed the Project sites and also have a series of discussions on i) progress of field activities, ii) future activities, iii) training courses in Japan and so forth.</li> <li>• Unit for Integrated Development Administration was established within Srebrenica Municipality, and in operation in response to the suggestion made by the Terminal Evaluation.</li> <li>• Major duties of the Development Unit (Unit for Integrated Development Administration) are to plan and coordinated donor activities in order to make the available outside resources to use effective manners, and to make it accountable.</li> <li>• The Development Unit members collected and disseminated information of good practices of donor activities.</li> </ul>
2-2 Information about agricultural and rural development is disseminated at least once a year by Srebrenica Municipality	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Municipal website of Srebrenica has been opened on the internet to share Project-related information.</li> <li>• Municipality broadcasts information of the Project such as planned meetings to call participants and progress by local radio.</li> <li>• The Project set up the Project web-page in 2008 and regularly updated to inform progress and activities and at least quarterly basis.</li> <li>• Skelani playroom teacher and assistants opened “Facebook page” and updating it regularly in order to disseminate the Room’s activities since 2012.</li> </ul>

Source: Project Annual Report 2009, 2010, 2011 and 2012

#### 4.5 Achievement of the Project Purpose

Comparison with Project Purpose “confidence among the targeted population is built through strengthening the capacity to manage agricultural and rural development joint activities”, status of achievement towards Project Purpose is summarized in the Table 4-3 below. It is assessed that Project Purpose has been met satisfactory levels of achievement on the two Outputs.

**Table 4-3: Level of Achievement of Project Purpose**

Indicator	Level of Achievement
The number of agricultural and rural development joint activities by the population is increased.	<p>The following were the agricultural and rural development joint activities carried out:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Strawberry</li> <li>2) Greenhouse</li> <li>3) Vinyl for Green House</li> <li>4) Fruits planting</li> <li>5) Raspberry</li> <li>6) Blueberry</li> <li>7) Grassland recovery</li> <li>8) Irrigation</li> <li>9) Rosehip</li> </ol>

	10) Apiculture 11) Chestnut 12) Japanese Acacia 13) Hazelnut 14) Kindergarten (Playroom) 15) Improvement of sheep farming 16) Herb 17) Kidney beans 18) Potato 19) Agro-machinery 20) Pruning
--	---

#### 4.6 Implementation Process

The Project has frequently held a meeting with each association regarding the Project activities. The Team evaluates that the implementation process of the Project, in terms of i) teamwork, ii) communication, iii) decision making process and iv) monitoring and confirmed that the process has been very satisfactory. It was also observed that relations between the JICA Experts and C/Ps have been very favourable, and exchanges of opinions and discussions have been active, and taken in liberal manners. Table 4-4 in the following summarizes major meetings among relevant personnel.

**Table 4-4: Major Meetings**

Meeting	Frequency/modality	Members
C/P Meeting	Monthly	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JICA Experts</li> <li>• Four (4) C/Ps of Srebrenica Municipality</li> <li>• Two (2) members of the Development Unit</li> </ul>
JCC (Joint Coordinating Committee)	<p>It was planned to be held at least once a year.</p> <p>JCCs were held five (5) times:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• July 2, 2009</li> <li>• June 23, 2010</li> <li>• April 13, 2011</li> <li>• March 15, 2012</li> <li>• February 15, 2013</li> <li>• November 11, 2013</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Mayor of Srebrenica Municipality (Chairperson)</li> <li>• JICA Experts</li> <li>• Resident Representative of JICA Balkan Office</li> <li>• Four (4) C/Ps of Srebrenica Municipality</li> </ul>
Meetings with associations and MZs	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Meetings on agricultural and rural development joint activities are frequently held with associations and MZs.</li> <li>• It is held anytime when needs arose.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JICA Experts</li> <li>• C/Ps of Srebrenica Municipality</li> <li>• Members of Associations and representatives of MZs.</li> </ul>

## **5. Evaluation Results**

### **5.1 Relevance**

It is evaluated that relevance of the Project implementation has been very high in the following reasons:

#### **(1) Policies of BiH and Development Strategies of Srebrenica Municipality**

The Project is in line with development strategy formulated by both the BiH strategy and the municipality targets. Medium-term strategy of BiH in 2010 to 2014 (draft) stipulates development of agricultural production, and income increase as one of the key targets in the agricultural and rural development sector. Development Strategies of Srebrenica Municipality also state that enhancing agriculture production, which aims to an increase in an income level, and building an opened society of multi-ethnicities and religions, are major operational objectives.

#### **(2) Consistency with Japan's Assistance Policies**

It was stated at the Ministerial Conference on Peace Consolidation and Economic Development of the Western Balkans held in Tokyo in 2004 that "Japan will actively contribute to Western Balkans peace consolidation, economic development and regional cooperation". One of the priority areas of Japan's assistance to BiH is Peace Consolidation and Reconciliation.

### **5.2 Effectiveness**

It is found that Project Purpose has been mostly achieved. Through 20 different types of activities supported by the Project, the Project met its purpose. These activities, in particular, at the beginning stages of the Project period were conducted by the multi-ethnic composed organizations, and those beneficiaries including both ethnicities have increased opportunities to communicate more by taking part in the activities.

While there is no definite quantitative measure to evaluate the extent of "confidence" according to a "Beneficiary Survey for Economic Situation and Reconciliation between Two Ethnic Groups" <sup>2</sup> carried out by the Project in 2010 (referred to as "Beneficiary Survey") shows that 51 % of the beneficiaries recognize that the number of opportunities to interact with other ethnic groups have been increased by the Project. Moreover, 38.4 % of them answered that the relationships with other ethnic groups would not have been improved if the Project had not been implemented.

### **5.3 Efficiency**

Efficiency of the Project is evaluated relatively high, since most of inputs were effectively utilized in order to attain Outputs, and planned activities were carried out as they were planned in timely manners.

---

<sup>2</sup> The Project conducted this survey in November and December, 2010. 268 households were interviewed in the survey.

Continuity of the JICA Expert from the previous period since 2006 made possible to conduct the Project planning and implementation in smooth because needs identifications and contacts of prospect beneficiaries were already firm, and good relations with C/Ps were established prior to a start of the Project in 2008. In particular, JICA Experts have lived at the target areas throughout the Project period, and this made needs identification, confirmation, monitoring on activities and technical transfer to C/Ps and beneficiaries on the ground highly effective.

#### 5.4 Impact

It is evaluated that Overall Goal will be achieved, as long as the present attainment of the Project is sustained further by the beneficiaries in the target communities.

According to a preliminary result by a survey conducted in October and November, 2013 by the Project, annual income of targeted population is shown on Figure 5-1 for 12MZs and Figure 5-2 for 7 newly added MZ during the extended period since 2011. Number of households with higher income (more than 6,000 KM) has drastically increased, and households in lower income (less than 500 KM) have decreased in 12MZs comparing to the results of 2008 and 2010.<sup>3</sup> The same tendency is also observed in the 7 MZs by comparing the data of 2010 and 2013. It is noted that in the years when the studies carried out (2008, 2010, 2011 and 2013), no major fluctuation of yields due to a climate change etc. was occurred.

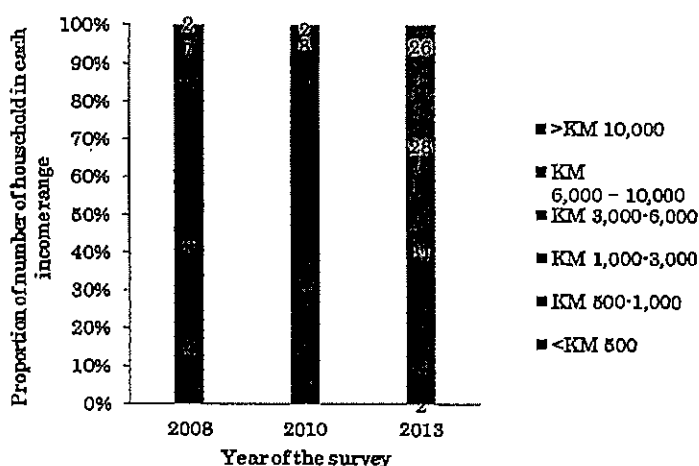


Figure 5-1: Number of Household in Annual Income Range (12 MZ)

<sup>3</sup> An impact survey was carried out by the Project with target of 156 sample households in 12 MZs and 96 samples HH in the newly extended 7 MZs after 2011 during October and November 2013. The results are under compilation at the time of the evaluation study in November, thus only a preliminary finding can be used for reference in this report.

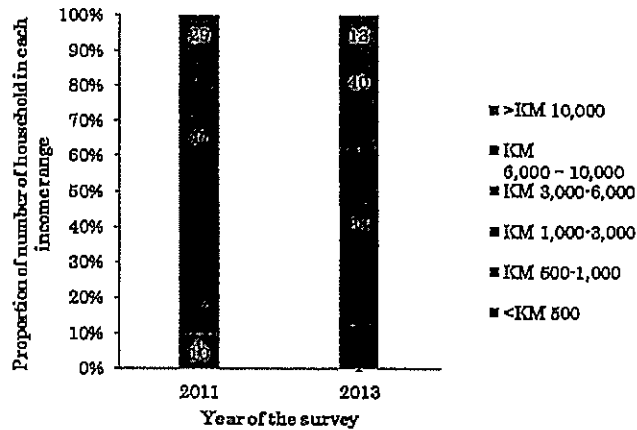


Figure 5-2: Number of Household in Annual Income Range (7 MZs)

There is no established methodology to numerically/quantitatively evaluate the progress on “promotion of reconciliation among people” which is one of the Overall Goals. However, following cases in the target communities are regarded as good signs to foresee to meet Overall Goal.

- Sharing water sources for irrigation
- Sharing collection points/venues of agricultural production such as raspberry and milk
- Exchange of agricultural machinery services

As an unexpected effect by the Project, it is observed that the Project support on grassland recovery invited development assistance such as cow distribution to farmers from other international organizations.

### 5.5 Sustainability

#### (1) Institutional Aspects

Development Unit at the Srebrenica Municipality was established during the Project period as a focal point to plan and coordinate the donor supports. It is expected that this Unit will be functioning for a channel to utilize resource inflow into the Municipality effectively. Srebrenica Municipality has allocated salary of teachers in the Playrooms, and according to the interview result during the evaluation study, Mayor showed intension of continuity of the Playrooms after the Project.

#### (2) Financial Aspect

Srebrenica Municipality expressed an intention to increase budget for agricultural and rural development projects in the coming Fiscal Year 2014. With this policy maintained further, financial sustainability on supporting agricultural production and rural development activities is positive.

#### (3) Technical Aspects

It is observed that agricultural production technologies and knowledge assisted by the Project have

been rooted on the ground firmly, and beneficiaries are highly expected to continue using the technologies for reproduction of farming in self-sustained manners.

#### **6. Evaluation based on the viewpoint of Conflict-Prevention and Peace-Building (CPPB) Activities**

This project, with its purpose to build confidence among the targeted inhabitants through strengthening the capacity to manage agricultural and rural development joint activities, shows its clear intention to be regarded as a project to prevent conflict and build peace (CPPB).

The evaluation of CPPB projects is recognized to be difficult, for there exists no universally applicable prescription for building peace. Among those CPPB activities, this project could be categorized to be one even more difficult to be evaluated, because it addresses mind-set of the target-groups. So much as that, its evaluation could not be of quantitative nature, but of qualitative one with accumulated situational proofs.

Based on this recognition, the following facts could be judged to be positive phenomena to show that the Project has been appropriately implemented.

##### 1) Selection of Beneficiaries:

As to associations' initiated projects, beneficiaries are selected on equal basis between the ethnic groups in accordance with fair criteria through consultation of association, MZ and JICA. In case of MZ-led projects, selection is carried out by the Conducting Board which composed of members of both ethnicity.

##### 2) Established knowledge-sharing in projects:

Through projects like apiculture, raspberry production and so forth, knowledge and expertise are shared among beneficiaries regardless of ethnicity, which has contributed to ameliorating the relation between them.

##### 3) Irrigation facility projects:

One of the driving factors of conflicts have been got rid of by securing water-supply for both ethnic groups. In case of mono-ethnic areas like Kutuzero (Podravanje MZ), the introduction of irrigation system has motivated IDPs to return.

##### 4) Play Room for small children:

It has given an opportunity to share time and space for not only the kids, but their parents of both ethnicity.

##### 5) Extension of targeted area

By extending the targeted area to cover the whole municipality, the project has decreased the risk of widening the gap of earnings differentials between the originally targeted MZs and the newly targeted ones, which contributed to diminishing the seeds for future conflicts.

Those positive accomplishments could be judged to be “signs” of improvement of the atmosphere which would enable the co-existence of both ethnic groups.

Additionally, the TV program, which was produced within the framework of the project and that introduced the efforts of the local inhabitants for reconciliation, could be assessed significant for CPPB of the whole nation.

## **7. Lessons Learnt**

### **(1) Quick launching**

It would take a longer time to realize reconciliation, if mutual distrust were left untouched longer. So it would be desirable to address the issue with as short preparation periods as possible by adopting flexible interpretation of methods of technical cooperation.

### **(2) Combination of “quick impact” and “dividend of peace”**

It is quite significant to show fruits of the projects as soon as possible to acquire trust among inhabitants. But on the other hand, it would make them realize the dividend of peace if they see the totally changed rural scenery with longer-term sub-project of agriculture. The combination of those sub-projects of different nature would make the impact bigger.

### **(3) Dissemination of information**

Even though the selection of beneficiaries has been implemented based on fair criteria, it was inevitable that distributions of support-materials became seeds of discontent among non-beneficiaries, or sometimes even among beneficiaries. Those kinds of discontents could be easily manipulated politically, as we could see in conflict-prone situations.

So it is advisable that information on the procedures including those criteria, selection process and so forth, would be widely disseminated at an appropriate timing.

### **(4) Relation between economic empowerment and change of mind-set**

It has been proved in the course of the project that job-creation and empowerment are the appropriate means to build confidence among inhabitants.

## **8. Conclusion and Recommendations**

The project covered the whole municipality by addressing the remaining 7 MZ during the extended period and, according to the preliminary results of the beneficiary survey carried out in October-November 2013, succeeded in improving the economic situation of the inhabitants by 30-40% on average compared with the incomes in 2011. Especially those farmers who are engaged in raspberry production, apiculture, sheep breeding, milk collection have established a stable livelihood.

During the extended period, the project began to support sheep breeding, which has proved to be effective in ensuring a fixed income. At the beginning of the extended period, the project focused on the remaining 7 MZ to fill the gap between the formerly targeted areas and the 7 MZ. But since 2012, the support has been extended to the whole 19 MZ, which contributed to the standardization and total improvement of the economic situation of the inhabitants.

As the result of this standardized improvement, the living atmosphere of the municipality has been greatly ameliorated and the reconciliation of the two ethnic groups has been advanced as could be seen in the above-mentioned phenomena.

With the notion just mentioned, the Joint Evaluation Team is of the opinion that the project has successfully accomplished its objectives, both in term of confidence-building and agricultural/rural development, and that it could be terminated as scheduled.

But taking into consideration of the fact that the environmental situations of BiH remain fragile, the Team recommend the local stakeholders to continue their efforts to strengthen the sustainability of the outputs. In the long run, the Municipality and C/Ps of the Project will transfer the acquired knowledge and skills onto the neighbouring municipalities for a wider peace and confidence building as to contribute further to the stability of the country and its preparation for the European integration.



Annex 1 Schedule of Terminal Evaluation Study

Date			1) Leader/Peace Building (Hashimoto)	2) Evaluation Analysis/Cooperation Planning (Hirashima)	3) Evaluation Analysis (Kawahara)
1	28-Oct	M	/	/	Tokyo to Istanbul
2	29-Oct	T			Istanbul to Sarajevo Sarajevo to Srebrenica (Skelani) Interview to Counterparts at Skerani Branch, Srebrenica Municipality (Project manager), Schedule arrangement and interview with JICA Expert
3	30-Oct	W			Interview to Counterparts at Srebrenica Municipality
4	31-Oct	T			Interview to playroom teacher/assistant, Interview to NGOs/beneficiaries
5	1-Nov	F			Interview to Playroom assistant, NGOs/beneficiaries
6	2-Nov	S			Compilation of data/information, Report writing
7	3-Nov	S			Compilation of data/information, Report writing
8	4-Nov	M	Tokyo to Istanbul	Belgrade to Sarajevo	Interview with JICA Experts and beneficiaries
9	5-Nov	T	Istanbul to Sarajevo Courtesy call to the Ministry of Foreign Affairs Sarajevo to Srebrenica(Skelani) Internal meeting	Courtesy call to the Ministry of Foreign Affairs Sarajevo to Srebrenica(Skelani) Internal meeting	Compilation of data/information, Report writing, Internal discussions in the Evaluation missions
10	6-Nov	W	Courtesy call to the Mayor of Srebrenica Municipality Meeting with Joint Evaluation Members Visit/interview at the playroom in Potcari Meeting with the JICA Experts	Courtesy call to the Mayor of Srebrenica Municipality Meeting with Joint Evaluation Members Visit/interview at the playroom in Potcari Meeting with the JICA Experts	Compilation of data/information, Report writing, Internal discussions in the Evaluation missions
11	7-Nov	T	Visit/interview at the playroom in Skelani Report writing Internal meeting	Visit/interview at the playroom in Skelani Report writing Internal meeting	Compilation of data/information, Report writing, Internal discussions in the Evaluation missions
12	8-Nov	F	Meeting with Joint Evaluation Members Report writing Internal meeting	Meeting with Joint Evaluation Members Report writing Internal meeting	Meeting with Joint Evaluation Members Report writing Internal meeting
13	9-Nov	S	Report writing	Report writing	Report writing
14	10-Nov	S	Report writing	Report writing	Report writing
15	11-Nov	M	Project Final Seminar JCC Meeting (M/M signing) Srebrenica to Sarajevo	Project Final Seminar JCC Meeting (M/M signing) Srebrenica to Sarajevo	Project Final Seminar JCC Meeting (M/M signing) Srebrenica to Sarajevo
16	12-Nov	T	Report to the Ministry of Human Rights and Refugees Report to the Embassy of Japan Sarajevo to Istanbul	Report to the Ministry of Human Rights and Refugees Report to the Embassy of Japan	Report to the Ministry of Human Rights and Refugees Report to the Embassy of Japan Sarajevo to Istanbul
17	13-Nov	W	Istanbul to Tokyo	Sarajevo to Belgrade	Istanbul to Tokyo

## Annex 2 Project Design Matrix (PDM)

Project Title: The Project for Confidence-Building in Srebrenica on Agricultural and Rural Enterprise Development (SACRED)

Target Area: Srebrenica Municipality

Target Group: Residents in Srebrenica Municipality especially for returnees, families with war victims, fatherless (or motherless) families

Implementation Schedule: September 2008 to November 2013 (5 years 3months)

31st May 2011 Ver.1

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions						
<p><b>Overall Goal</b></p> <p>1 The economic situation of the targeted population is improved.</p> <p>2 Reconciliation of people in the target area is promoted.</p>	<p>1-1 The income and the number of income sources of targeted population are increased.</p> <p>2-1 The consciousness of target population of the project</p>	<p>1-1 The report of the balance and monitoring of the project by related organization</p> <p>1-2 The result of examination of economic condition in the target area</p> <p>2-1 The result of examination of consciousness of target population of the project</p> <p>2-2 The report of monitoring</p>	<p>- Price of agriculture products and commodity in Bosnia and Herzegovina are stable.</p> <p>- Extreme natural disasters do not occur in target area.</p>						
<p><b>Project Purpose</b></p> <p>Confidence among the targeted population is built through strengthening the capacity to manage agricultural and rural development joint activities.</p>	<p>The number of agricultural and rural development joint activities by the population is increased.</p>	<p>1 The report of the project by related organization</p> <p>2 The report of monitoring</p>	<p>- The policy of project implementation by Srebrenica Municipality is not changed drastically.</p>						
<p><b>Outputs</b></p> <p>1 Agricultural and rural development activities are implemented continuously by the targeted people.</p> <p>2 Information about agricultural and rural development for re-building co-existent society is disseminated.</p>	<p>1 The conditions of implementation of the projects by related organization such as MZs and NGOs.</p> <p>2-1 Information about agricultural and rural development is collected and recorded by Srebrenica Municipality</p> <p>2-2 Information about agricultural and rural development is disseminated at least once a year by Srebrenica Municipality</p>	<p>1-1 The report of the project by related organization</p> <p>1-2 The report of monitoring</p> <p>2-1 The record of each project by Srebrenica Municipality</p> <p>2-2 The report of the dissemination by Srebrenica Municipality</p>	<p>- The policy of project implementation by Srebrenica Municipality is not changed drastically.</p>						
<p><b>Activities</b></p> <p>1-1 The targeted people find useful technique, talent and resources in the target area.</p> <p>1-2 The targeted people make plans for income generation activities based on agriculture.</p> <p>1-3 The targeted people implement income generation activities based on agriculture.</p> <p>1-4 The targeted people innovate activities for improvement of life condition.</p> <p>1-5 Srebrenica Municipality identifies and introduces ARD activities with high potential in whole municipal area (the target area).</p> <p>1-6 The targeted people and organizations participate in transferring know-how and ARD activities in whole municipal area.</p> <p>1-7 Srebrenica Municipality and the targeted people monitor the activities.</p> <p>2-1 Srebrenica Municipality keeps record of the activities.</p> <p>2-2 Srebrenica Municipality compiles lessons learnt from the Project activities.</p> <p>2-3 Srebrenica Municipality implements and improves activities to disseminate information for sharing the experiences and lessons of the Project in local society</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="647 1285 1415 1317">Inputs</th> </tr> <tr> <th data-bbox="647 1317 948 1348">Japan</th> <th data-bbox="948 1317 1415 1348">Bosnia and Herzegovina</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="647 1348 948 1948"> <p>1 Japanese experts Chief Advisor/ Agriculture Extension Project Coordinator/Rural Development, Multi-ethnic Participatory Rural Activities/ Project Coordination, Other experts in the specific fields of technology transfer may be dispatched, if necessary.</p> <p>2 Equipments for the project</p> <p>3 Project Expense</p> <p>4 Training in Japan</p> </td> <td data-bbox="948 1348 1415 1948"> <p>1 Counterpart from Srebrenica Municipality Project Director Project Manager Technical Counterpart Personnel</p> <p>2 Office space and necessary facilities</p> <p>3 Cost for Utilities</p> <p>-Necessary expenses in relation with the activities by the counterparts</p> <p>-Running cost of the office space (lighting and heating expenses)</p> </td> </tr> </tbody> </table>			Inputs		Japan	Bosnia and Herzegovina	<p>1 Japanese experts Chief Advisor/ Agriculture Extension Project Coordinator/Rural Development, Multi-ethnic Participatory Rural Activities/ Project Coordination, Other experts in the specific fields of technology transfer may be dispatched, if necessary.</p> <p>2 Equipments for the project</p> <p>3 Project Expense</p> <p>4 Training in Japan</p>	<p>1 Counterpart from Srebrenica Municipality Project Director Project Manager Technical Counterpart Personnel</p> <p>2 Office space and necessary facilities</p> <p>3 Cost for Utilities</p> <p>-Necessary expenses in relation with the activities by the counterparts</p> <p>-Running cost of the office space (lighting and heating expenses)</p>
Inputs									
Japan	Bosnia and Herzegovina								
<p>1 Japanese experts Chief Advisor/ Agriculture Extension Project Coordinator/Rural Development, Multi-ethnic Participatory Rural Activities/ Project Coordination, Other experts in the specific fields of technology transfer may be dispatched, if necessary.</p> <p>2 Equipments for the project</p> <p>3 Project Expense</p> <p>4 Training in Japan</p>	<p>1 Counterpart from Srebrenica Municipality Project Director Project Manager Technical Counterpart Personnel</p> <p>2 Office space and necessary facilities</p> <p>3 Cost for Utilities</p> <p>-Necessary expenses in relation with the activities by the counterparts</p> <p>-Running cost of the office space (lighting and heating expenses)</p>								
			<p><b>Preconditions</b></p> <p>The related organizations and the targeted people participate in the project.</p>						

**Annex 3 Dispatch of JICA Experts**

No.	Name of Expert	Field	Period of Assignment		Remarks
			From	To	
1	Mr. Yasumasa OIZUMI	Chief Advisor/Agricultural Extension	01/11/2008	01/09/2011	
2	Mr. Takeshi ISHIKAWA	Rural Development/Project Coordinator	02/09/2008	01/09/2010	
3	Mr. Hidekazu SUEMATSU	Agricultural Product Development and value adding	08/02/2009	25/03/2009	
4	Ms. Keiko SAKURAI	Advisor for Education Techniques and management system on pre-schools education	26/08/2009	08/11/2009	
5	Ms. Maki YAMAGISHI	Project Coordination/Support on Local Residents' Activities	29/09/2010	26/12/2010	
6	Ms. Maki YAMAGISHI	Multi-ethnic Participatory Rural Activities/ Project Coordination	21/02/2011	01/09/2011	
7	Mr. Yasumasa OIZUMI	Chief Advisor/Agricultural Extension	01/11/2011	14/12/2011	
			11/01/2012	23/02/2012	
			15/04/2012	30/05/2012	
			10/08/2012	10/09/2012	
			16/11/2012	30/11/2012	
			15/06/2013	06/07/2013	
			03/11/2013	28/11/2013	
8	Ms. Maki YAMAGISHI	Multi-ethnic Participatory Rural Activities/ Project Coordination	01/09/2011	03/06/2013	
			20/08/2013	30/11/2013	
9	Ms. Keiko SAKURAI	Advisor for Education Techniques and management system on pre-schools education	11/01/2012	21/03/2012	

#### Annex 4 Acceptance of C/Ps for Training in Japan

No.	Name of Counterpart	Post at assignment time	Training in Japan		
			Year	Name of Training Course	Duration
1	Ms. Vesna Stevanovic	Secretary	2008	Community Development and Development of Rural Industry	2009.2.23-2009.3.7
2	Mr. Muninovic Almir	President, NGO "Dam"	2008	Community Development and Development of Rural Industry	2009.2.23-2009.3.7
3	Mr. Trifunovic Milomir	Chairman of Kosilomci MZ	2008	Community Development and Development of Rural Industry	2009.2.23-2009.3.7
4	Mr. Jovanovic Blagomir	Head of local office at Skelani	2008	Community Development and Development of Rural Industry	2009.2.23-2009.3.7
5	Mr. Atic Sevdet	Chairman of Skendorovici MZ	2009	Community Development and Development of Rural Industry	2009.11.30-2009.12.14
6	Mr. Bekic Bego	C/P of Srebrenica Municipality	2009	Community Development and Development of Rural Industry	2009.11.30-2009.12.14
7	Mr. Bekic Emir	C/P of Srebrenica Municipality	2009	Community Development and Development of Rural Industry	2009.11.30-2009.12.14
8	Mr. Dimitrijevic Vukasin	Representative of local farmer	2009	Community Development and Development of Rural Industry	2009.11.30-2009.12.14
9	Ms. Leka Slavica	President, NGO "New Hope"	2009	Community Development and Development of Rural Industry	2009.11.30-2009.12.14
10	Ms. Maksimovic Katarina	C/P of Srebrenica Municipality	2009	Community Development and Development of Rural Industry	2009.11.30-2009.12.14
11	Mr. Simic Nedeljko	Vocational Counterpart for reconstruction and Return	2009	Community Development and Development of Rural Industry	2009.11.30-2009.12.14
12	Mr. Omerovic Muhzin	Head of the Team for Integrated Development	2011	Development of local industry	2012.02.26-2012.03.10
13	Mr. Vukosavljevic Milos	Head of Department of Economy and Development	2011	Development of local industry	2012.02.26-2012.03.10
14	Mr. Mujcinovic Hasmir	C/P of Srebrenica Municipality	2011	Development of local industry	2012.02.26-2012.03.10
15	Mr. Nukic Salko	Chairman of Osatica MZ	2011	Development of local industry	2012.02.26-2012.03.10

**Annex 5: Provision of Equipment and Materials**

Name of Articles	Norm/Standard	JPY Value	Currency	Foreign Currency Value
Copy machine	Canon IR 2018	163,852	KM	1,907.00
Copy machine	Canon 1510	121,369	KM	1,523.34
Desktop Computer	Phillips LCD17 170s6fc	117,303	KM	1,472.30
Pick up truck	Nissan pick up 2.5 DL	3,120,614	EUR	19,902.00
Tractor	IMT 539 DV	1,674,728	KM	21,020.00
Packing machine	PVP 351	979,979	KM	12,300.00
Rotary plow	Imt fresza sa kardanom	195,199	KM	2,450.00
Tractor trailer	FAK LOZNCA 3.8t	286,823	KM	3,600.00
Hay collector	Sunce	67,722	KM	850.00
Rotation mower	IMT 4 discs	254,954	KM	3,200.00
Power Sprayer	Sr420	82,860	KM	1,040.00
Power sprayer	Sr420	82,860	KM	1,040.00
Power sprayer	Sr420	82,860	KM	1,040.00
Greenhouse for strawberry production	100m2	88,915	KM	1,116.00
Greenhouse for strawberry production	100m2	88,915	KM	1,116.00
Tractor IMT539. 1615 with cabin	chassis No.501304405 Color 1	1,219,795	KM	15,310.00
Side-car IMT 635.35	3.5t Chassis No.501015595 C	346,578	KM	4,350.00
Cardan sidecar with universal connector	1t, Chassis No.50940882, red	237,824	KM	2,985.00
Device for the soil attrition	613.20	161,736	KM	2,030.00
Plough	775	100,762	KM	1,340.00
Greenhouse	100m2	285,469	KM	3,583.00
Greenhouse	100m2	285,469	KM	3,583.00
Greenhouse	100m2	285,469	KM	3,583.00
Greenhouse	100m2	285,469	KM	3,583.00
Water pump	Tomos mp2	54,146	KM	679.60
Hand tractor IMT 408D	Power 12.5 Color red	6,905,028	KM	86,667.00
Hand tractor IMT 408D	Power 12.5 Color red	6,905,028	KM	86,667.00
Hand tractor IMT 408D	Power 12.5 color red	6,905,028	KM	86,667.00
Hand tractor IMT 408D	Power 12.5 color red	6,905,028	KM	86,667.00
Corn harvester	Single-row SIP roller	1,177,991	KM	18,150.00
Tractor	IMT 549	1,914,640	KM	29,500.00
Pump for drier facility		84,178	RSD	62,933.80
Rakija distiller	KZK 300L	651,854	KM	9,510.89
Herb dryer	VTS-2000	5,328,057	EUR	41,464.45

## Annex 6 Local Cost by the Japanese side

Currency Unit: Euro

.	Category	JFY 2008	JFY 2009	JFY 2010	JF 2011	JFY 2012	JFY 2013	Total
1	Employment	12,337	14,943	18,219	24,666	27,292	22,747	120,204
2	Rental fee and fuel of Vehicles	15,832	19,151	18,630	24,719	23,822	16,711	118,865
3	Equipment for Project Office (Consumption)	13,393	6,317	4,518	9,947	12,320	7,461	53,956
4	Travel Expense	1,046	455	159	1,297	971	395	4,323
5	Project Activities	166,430	258,073	278,178	189,105	194,283	153,822	1,239,891
	<b>Total</b>	<b>209,038</b>	<b>366,673</b>	<b>319,704</b>	<b>319,704</b>	<b>258,688</b>	<b>201,136</b>	<b>1,674,943</b>

## Annex 7 Assignment of Counterpart Personnel

Name	Position	Period
1) Mr Abdurahman Malkic 2) Mr Osman Sugic 3) Mr Camil Durakovic	Mayor, Srebrenica Municipality <b>(Project Director)</b>	2006-2008 2008-2010 Jan 2013- Nov 2013
Mr. Blagomir Jovanović	Head of Local Office Skelani, Administration General Department, Srebrenica Municipality <b>(Project Manager)</b>	Sep 2008- Nov 2013
Mrs. Katarina Maksimović	Independent Expert/Associate (agriculture), Department of Economy and Development, Srebrenica Municipality	Sep 2008 -Nov 2013
Mr. BegoBekić	Independent Expert/Associate (Cooperation with MZs), Department of Social Affairs and Public Services, Srebrenica Municipality	Sep 2008-Nov 2013
Mr.Hasmir Mujcinovic	Veterinarian inspector, Department of Economy and Development, Srebrenica Municipality	Sep 2011-Nov 2013

**Annex 8 Local Cost Expensed by the Bosnia Herzegovinian side (Srebrenica Municipality)**

Currency unit: BiH KM

Main Item	FY						
	2008	2009	2010	2011	2012	2013*	Total
Salary of Playroom Care Taker	0	1,350	8,614	15,729	15,340	12,572	53,605
Utilities	5,250	9,000	10,000	10,000	10,500	11,500	56,250
Agricultural Irrigation					2,500	1,850	4,350
<b>Total</b>	<b>5,250</b>	<b>10,350</b>	<b>18,614</b>	<b>25,729</b>	<b>28,340</b>	<b>25,922</b>	<b>114,205</b>

Source: Srebrenica Municipality

Note: 90-95% of the FY expense in 2013 consumed is indicated.

**Reason of increase in expenses after 2011:**

- 1) Along with increase in target MZs, activities taken over by the Municipality were increased.
- 2) Costs for some parts of operating the Playrooms (such as salary of city government staff) are taken over by the Municipality.



Annex 9 Quantity of Assistance to Each MZ from 2006 to 2013

MZ (No of HH*) Year Assisted from	Characteristics	Total No of Beneficiaries	No of direct beneficiaries						
			Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blue berry	Grass land recovery
Skelani (433) 2006-	Located along the Drina. Farmers own relatively large land and are actively involved in farming. Greenhouse vegetable production, raspberry production, apiculture are successfully developed to the extent of establishing the markets. One cooling facility for storing raspberries has been constructed by private person in 2012 and started buying from the producers in the area. Agricultural machinery were introduced through local NGOs for the share use of community but the system of share use didn't function well and the services have been provided to the surrounding farmers as if those are private properties.	1,275	20	39	58	83	82	3	254
			Irrigation	Rosehip	Apicultur e	Chest nut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			41	7	116	299	21	22	207
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-ma chinery	Pruning	
			4	17	—	—	2 NGOs	2	
Crvica (103) 2006-	Located along the Drina. Greenhouse vegetable production, raspberry production, fruits planting and apiculture are successfully introduced. Rakija production has been supported though fruits tree planting and installation of distillers for community use. In 2013, the trees planted in 2006 started to bear fruits and the amount of rakija produced is expected to increase. A cooling facility for storing raspberry has been constructed in 2012 by the agricultural cooperative and started to buy raspberries from the producers in the area. The competition between buyers has contributed to the rise of the purchase price from producers.	477	1	8	17	80	26	2	112
			Irrigation	Rosehip	Apicultur e	Chest nut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			0	3	26	179	1	12	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-ma chinery	Pruning	
			0	10	0	0	1 NGO	0	
Kostolomci (55) 2006-	Households are scattered on the hills from the bank of the Drina. Farmers own limited land on the slope and maintain the small scale farming. Greenhouse vegetable production, raspberry production, fruits tree planting, apiculture and share-use of hand tractors are successfully introduced. Thanks to the character and leadership of MZ chairman, hand tractors are well maintained by MZ and providing services for local community. MZ chairman participated in training in Japan.	322	1	22	17	52	16	2	88
			Irrigation	Rosehip	Apicultur e	Chest nut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			21	0	24	72	6	0	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-ma chinery	Pruning	
			0	1	0	0	MZ	0	
Toplica	Located on the hilly bank of the Drina. Villages are	207	Straw	Green	Vinyl for	Fruits	Rasp	Blue	Grassland

(37) 2006-	scattered among the hills. Fruits tree planting, raspberry production and apiculture have been successfully introduced and started to bring cash income to the residents. The introduced hand-tractor for community use has become for single village use because of the poor access between the villages.		berry	house	GH	planting	berry	berry	recovery
			2	7	5	58	30	3	63
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			3	2	22	0	4	4	0
Krnjci (16) 2006-	Poor access from main road. No asphalt road to MZ. Not much residents have returned back. Many people maintain farms by seasonal visiting. Raspberry production, fruits planting and apiculture have been successfully introduced. In 2013, irrigation system has been constructed for 6 households who are planning to return back. Those households invested 1,000KM each for the construction of water tank.	110	Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			1	3	4	31	10	0	18
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			6	0	17	14	1	4	0
Luka (39) 2006-	One hour drive in mountain road to MZ. Difficult access during snow season. Fruits tree planting has been successfully introduced. Many bees have died because of the climate. (According to the residents). MZ area is suitable for livestock farming. Project started to support for sheep farming since 2013. The four hand-tractors for community use have become private use because of the too many number of donations from several donors.	212	Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blue berry	Grassland recovery
			0	0	0	55	0	0	4
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			0	0	87	53	0	0	0
Brezani (35) 2008-	Fruits tree planting and raspberry production has been successfully introduced. Farmers are expanding the raspberry production with cooperation of Agriculture cooperative. In Brezani village, irrigation facility to cover 24 households specially for irrigating raspberry plants has been constructed by the support of the project and also the contribution of the residents. In Osmac village, livestock farming has developed and the recovery of pasture land is outstanding in the region.	281	Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			0	10	3	54	28	8	73
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			24	1	0	46	0	32	2
Radosevic (47) 2008-	Located on the bank of the Drina. Poor access to MZ. Fruits tree planting and apiculture has been successfully introduced. Strawberry production for marketing purpose was not appropriate because of the poor access to the market. Many residents are seasonally farming for self-consumption purpose.	128	Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			12	0	0	6	1	0	48
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			12	0	25	0	13	11	0

			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
			0	0	0	0	0	0	
Ratkovic (9) 2008-	Very poor access to MZ. No rehabilitation of the access road because of the small number of returnees. Most of the residents are seasonally visiting the village to cultivate the land for self-consumption purpose.	57	Straw berry	Greenhouse	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			0	10	2	9	0	0	15
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kindergarten
			10	0	0	9	0	2	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
			0	0	0	0	0	0	
Skenderovic (12) 2008-	Very poor access to MZ. No rehabilitation of access road because of the small number of returnees. Fruits tree planting and sheep farming have been successfully introduced to the permanent residents in the village. Many of residents are seasonally visiting the village to farm for self-consumption purpose. MZ chairman participated in training in Japan.	59	Straw berry	Greenhouse	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			0	4	0	19	0	0	6
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kindergarten
			0	0	12	12	0	0	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
			6	0	0	0	0	0	
Osatica (80) 2008-	Located on the main road connecting Skelani and Srebrenica and used to be a post office and agriculture shops before the conflict. Greenhouse vegetable production, fruits tree planting, raspberry production and apiculture have been successfully introduced. Chairman and vice chairman of MZ have been active and cooperative to the project. The chairman has participated in the training in Japan as a head of apiculture association, Osatika.	441	Straw berry	Greenhouse	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			0	9	5	60	35	4	99
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kindergarten
			21	9	61	99	20	16	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
			3	0	0	0	0	0	
Podravanje (43) 2008-	Located on the way from Skelani to Milici Municipality close to the mine factory. Fruits tree planting and apiculture has been successfully introduced. Strawberry and greenhouse vegetable production for marketing purpose were not appropriate because of the poor access to the market. Irrigation facility with an electrical pump supported in 2009 for the remotest village has been maintained by the villagers and functions well after 4 years. Many residents were affected by the Brucellosis broke out in 2007 and suspended sheep farming. Project started supports in sheep farming from 2011 and the	169	Straw berry	Greenhouse	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			6	0	1	18	7	0	58
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kindergarten
			10	3	23	15	5	22	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
			1	0	0	0	0	0	

	villager from this MZ also participated in the program.									
Orahovic (75) 2011-	Households are scattered on the hills along the Jadar. Fruits tree planting, raspberry production, greenhouse vegetable production and sheep farming have been successfully introduced. Raspberry seedlings are mainly planted on the main road for marketing purpose. Greenhouses vegetable production is mainly for self-consumption purpose.	190	Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Raspberr y	Blueberry	Grassland recovery	
			2	9	1	25	16	5	54	
			Irrigation	Rosehip	Apicultur e	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten	
			2	0	0	0	11	31	0	
Suceska (110) 2011-	Located on hilly area. Suitable for livestock farming. Sheep farming, fruits tree planting and apiculture have been successfully introduced. Many farmers have participated into the grass filed recovery program for feeding their livestock. The improvement of landscape is outstanding.	436	Straw berry	Greenhou se	Vinyl for GH	Fruits planting	Raspberr y	Blueberry	Grassland recovery	
			0	0	1	18	10	4	265	
			Irrigation	Rosehip	Apicultur e	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten	
			4	0	11	0	16	76	0	
Potocari (297) 2011-	Located on the main road from Srebrenica town to Bratunac town. There are a cooling facility for storing raspberry and a wine factory and used to be several different factories before the conflict. Raspberry production, fruits tree planting and sheep farming have been successfully introduced and one vegetable seedling producer has been created for ensuring the quality of the seedlings. Playroom has been opened in the space of primary school. The working hour of the playroom has been extended from 4 hours to 8 hours based on the demand of the parents.	322	Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery	
			0	1	2	6	17	5	132	
			Irrigation	Rosehip	Apicultur e	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten	
			1	0	9	0	2	56	36	
Sase (53) 2011-	Located close to the mine factory. The factory has been bought Russian company and only 10 villagers are employed (according to the residents). Raspberry production, sheep farming and fruits tree planting have been successfully introduced. MZ chairman works as a head of raspberry producers' association and tries to bring the most benefit to the producers with cooperation of Municipalities. He participated in training in Japan. Irrigation facilities have been rehabilitated in remote area for new returnees.	116	Straw berry	Green house	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery	
			0	0	0	5	10	1	52	
			Irrigation	Rosehip	Apicultur e	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten	
			5	0	4	0	2	19	0	
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-ma chinery	Pruning		
			3	0	6	9	0	0		

Gostiji (132) 2011-	Located from main road to the hilly area. Many residents own small farm and cultivate for self-consumption purpose. Residents are relatively young and many of them are employed or seasonally hired for making cash income. Raspberry production and apiculture have been successfully introduced.	127	Straw berry	Greenhouse	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			0	1	0	6	17	0	32
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			0	0	10	0	1	21	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
3	0	16	18	0	2				
Viogor (24) 2011-	Households are scattered on the hills and valleys. Poor access to the villages. Raspberry production, sheep farming and apiculture have been successfully introduced. Residents on main road are fully involved in farming and the others in remote area are farming mainly for self-consumption purpose.	88	Straw berry	Greenhouse	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			0	7	0	3	10	1	22
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			9	0	10	0	3	10	0
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
5	0	4	4	0	0				
Srebrenica (no data)	Administrative and business center. Little land available for farming.	0	Straw berry	Greenhouse	Vinyl for GH	Fruits planting	Rasp berry	Blueberry	Grassland recovery
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
<b>Total</b>		<b>5,017</b>	<b>Straw berry</b>	<b>Green house</b>	<b>Vinyl for GH</b>	<b>Fruits planting</b>	<b>Rasp berry</b>	<b>Blue berry</b>	<b>Grassland recovery</b>
			45	130	116	588	315	38	1395
			Irrigation	Rosehip	Apiculture	Chestnut	Japanese Acacia	Hazel nuts	Kinder garten
			169	25	457	798	106	338	245
			Sheep	Herb	Kidney beans	Potato	Agro-machinery	Pruning	
			78	30	71	57	3 NGOs, 4 MZ	16	

Note: No of households: the number of households living in MZs throughout the year. Survey carried by the Project in November to December, 2013 (on-going at the time of Terminal Evaluation in Nov 2013)

